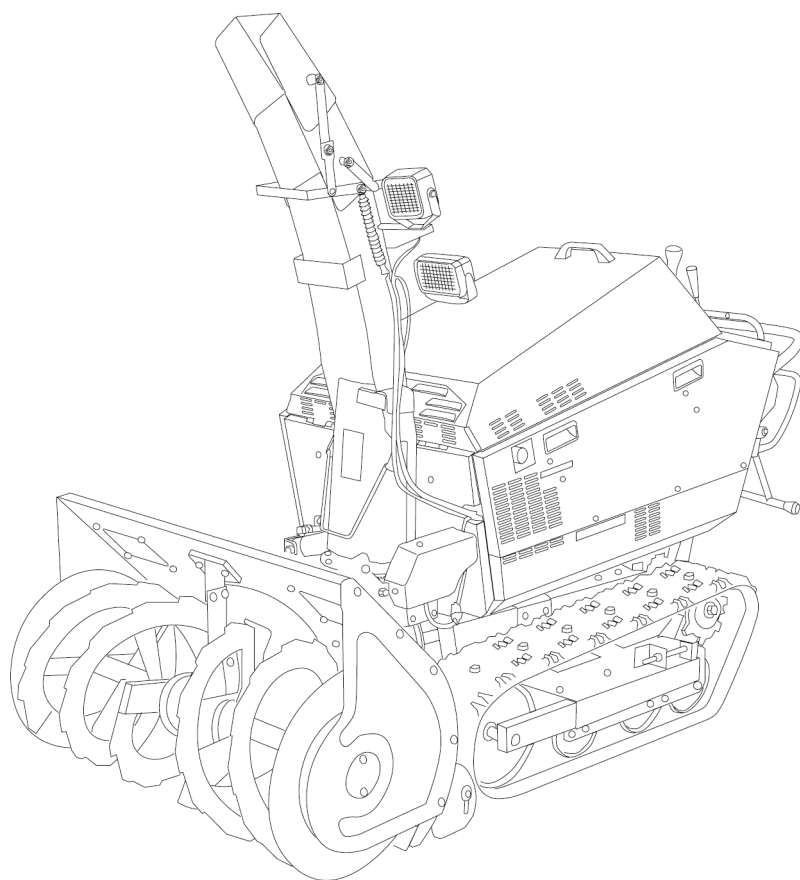


# 取扱説明書



# 除雪機 **SX1792-NT**



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。



# はじめに

## お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、和同除雪機をお買い上げいただきありがとうございました。  
この取扱説明書は、機械の取扱い方法と、使用上の注意事項について記載  
しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内  
容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお  
手元に置いてください。

### お願い

- 本機を使用する前に、必ず取扱説明書をよく読んで、十分理解してから使用し  
てください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡  
してください。
- この取扱説明書および警告ラベルを、紛失または損傷された場合は、速やかに  
お買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章 安全に作業す  
るために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みくだ  
さい。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販売  
店へご相談ください。

### おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、  
本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合があ  
りますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれ  
などが発見されてもただちに修正できないことがあります。販売店へご相談く  
ださい。

## 説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または、重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

### [重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

### [参考]

作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

## 本製品の使用 目的について

- 本製品は、積雪を除去する除雪作業機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
- 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。）

# もくじ

## はじめに

1章	安全に作業するために必ずお守りください……………	1
・ 1.	一般的な注意項目 ……………	1
・ 2.	作業前後の確認時の注意項目 ……………	4
・ 3.	輸送時の注意項目 ……………	9
・ 4.	移動・作業時の注意項目 ……………	11
・ 5.	作業終了後・格納時の注意項目 ……………	17
・ 6.	警告ラベルの貼り付け位置 ……………	18
2章	機械の調子が悪いときは……………	21
3章	各部のなまえ……………	22
4章	各操作部のはたらき……………	24
5章	運転前の準備・点検……………	34
6章	エンジンのかけかた……………	35
7章	除雪作業のしかた……………	39
8章	除雪機の止めかた……………	45
9章	除雪機の運搬のしかた……………	49
10章	定期点検……………	51
11章	点検・整備のしかた……………	52
12章	長期間使用しないときの手入れ……………	68
13章	不調診断のしかた……………	70
14章	主要諸元……………	71
15章	主要消耗部品および標準付属品……………	73

# 1章 安全に作業するために必ずお守りください

ここに記載されている注意事項を守らないと、  
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

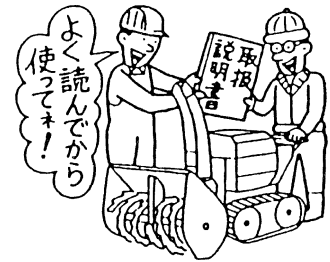
## 1. 一般的な注意項目



**注意**

「取扱説明書」をよく読んで。

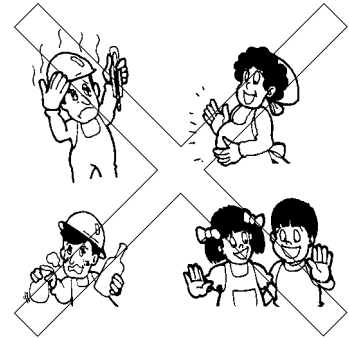
本機を使用する前に、必ず「取扱説明書」をよく読んで、十分理解してから使用してください。取扱説明書に記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



**警告**

こんなときは運転しない。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- 酒を飲んだとき
- 妊娠しているとき
- 18歳未満の人
- 睡眠不足の人
- 操作する体力に自信のない人
- 運転が未熟な人
- 視力不足のため、表示内容が読めない人
- 取扱説明書の内容が理解できない人



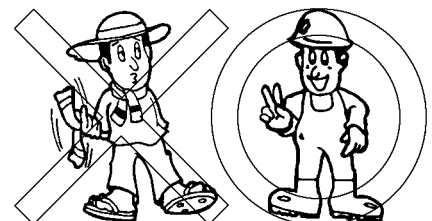
**警告**

すべりにくい靴・手袋などの作業に適した服装を心がけてください。

はち巻き、マフラー、その他巻き込まれそうな服装は禁止です。  
ヘルメット、すべり止めの付いた長靴、手袋を着用し、作業しやすい、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、ケガをするおそれがあります。





### 除雪目的外の作業は絶対禁止。

本機は除雪機です。除雪目的外の使用は絶対しないでください。

#### 【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



### 機械を他の人に貸すときは。

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

#### 【守らないと】

説明不足により死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

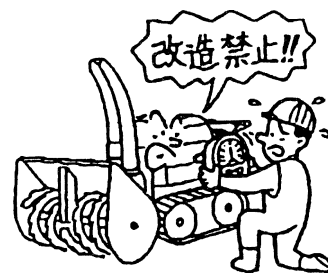


### 機械の改造や指定以外のアタッチメントの装着禁止。

改造をしないでください。

#### 【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。



### 機械の中に手を入れない。

カバーの中には回転部や可動部があり、むやみに手などを入れると大変危険です。やむをえないときは必ずエンジンを停止してから行ってください。

#### 【守らないと】

回転物などに巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。





### 高圧洗浄機を使用しない。

本機を洗う際には高圧洗浄機を使用しないでください。

#### 【守らないと】

- 電気配線部被覆の損傷、断線により、火災をおこすおそれがあります。
- 機械の破損、損傷、故障の原因になります。
- 塗装、メッキ、ラベルが剥がれるおそれがあります。



### 電装品に水をかけない。

電装品に水をかけないでください。

#### 【守らないと】

- 機械の誤動作により、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 電装品の故障の原因になります。



## 2. 作業前後の確認時の注意項目

### **危険**

注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う。

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油・点検をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災の原因となることがあります。



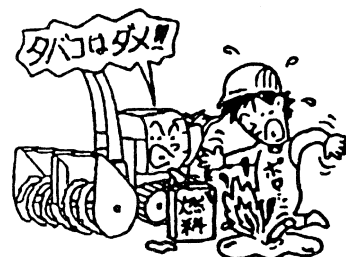
### **危険**

燃料補給時は火気厳禁。

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明など火気厳禁です。

【守らないと】

燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



### **危険**

バッテリー点検時は火気厳禁。

バッテリーの点検時、液槽キャップを開けたときは火気厳禁です。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



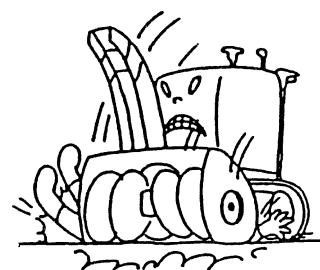
### **危険**

機械の下にもぐったり、足を入れない。

機械の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

何かの原因で機械が動いたときに、傷害事故をおこすおそれがあります。



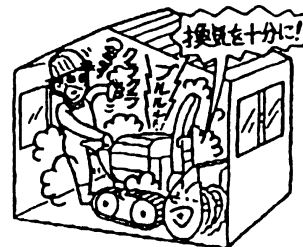
**危険**

**排気ガスには十分に注意。**

しめきった屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

**【守らないと】**

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



**警告**

**燃料もれに注意する。**

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

**【守らないと】**

火災事故を引き起こすことがあります。



**警告**

**燃料タンクキャップをしめ、こぼれた燃料は拭き取る。**

燃料を補給したときは、燃料タンクキャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

**【守らないと】**

火災事故を引き起こす原因になります。



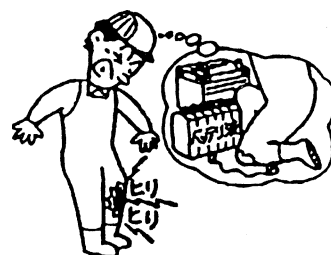
**警告**

**バッテリー液は体につけないように。**

バッテリー液を身体や衣服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

**【守らないと】**

服が破れたり、火傷します。





### バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で。

バッテリーを取り付けるときはプラス側を先に取り付け、取り外すときは、マイナス側から取り外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故の原因となります。



### バッテリー端子の接続は正しく確実に。

バッテリー端子のプラス側とマイナス側を接触させたり、プラス側を機械に接触させないでください。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故の原因になります。



### 必ず指定のバッテリーを使用。

バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定されたバッテリーを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。

※指定のバッテリーはP.67参照



### 電気部品・コードは必ず点検。

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因となることがあります。





### 除雪する地域の異物はあらかじめ取り除く。

あらかじめ除雪する地域の木片・ビニール・ビン・カン・ホース・ナワ・布切れ・およびその他の異物をすべて取り除いてください。

#### 【守らないと】

除雪作業中に取り込んだ異物などが飛び出し、思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



### マフラー・エンジンのゴミは取り除く。

マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料など付着していないか作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

#### 【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすおそれがあります。

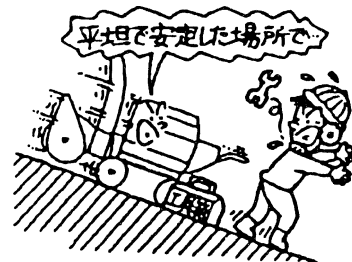


### 点検整備は平坦で安定した場所で行う。

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で点検整備をしてください。

#### 【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

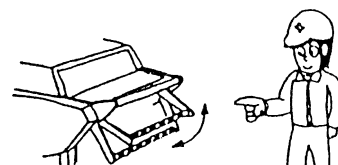


### 作業前には必ず安全装置を確認する。

作業前に安全装置の取扱いと、適切に働くかを確認してください。

#### 【守らないと】

安全装置が作動せず、死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。



**注意**

作業前・後は必ず機械の点検をする。

使用の前と後には必ず機械の点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操作装置は確実に作動することを確認してください。

**【守らないと】**

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



**注意**

カバー類は必ず取り付ける。

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

**【守らないと】**

機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



**注意**

点検整備は高温部が十分冷めてから。

マフラーやエンジンなどの高温部が十分冷めてから点検整備をしてください。

**【守らないと】**

火傷をするおそれがあります。



**注意**

機械の点検整備・清掃などをするときにはエンジンを停止する。

**【守らないと】**

思わぬ傷害事故の原因となります。



### 3. 輸送時の注意項目



トラックへの積み込み時は、長さ・強度・幅の十分ある  
アユミ板を使用する。

アユミ板は丈夫ですべり止めのある、基準にあった  
ものを使ってください。

【守らないと】

アユミ板が折れたりして転倒し、傷害事故をおこす  
ことがあります。

<アユミ板の基準>

強度：機体の重量に十分耐えるもの

幅：クローラ幅の1.2倍以上

長さ：荷台の高さの4倍以上

(積載時の傾斜が約14°以下)

：すべり止めのあるもの

：フックのあるもの

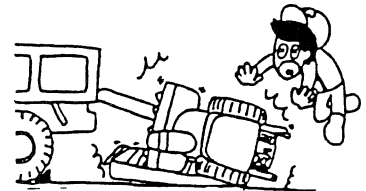


アユミ板は確実に固定する。

積み込み・積み降ろしをするトラックの荷台からズレたり、外れたり  
しないように確実にアユミ板を固定してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

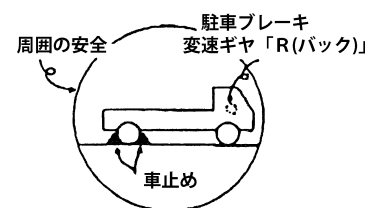


トラックには必ず車止めを。

積み込むトラックのエンジンを止め、変速は「P」または、「1」・「R」  
位置に入れ、駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて。

トラックなどからの積み込み・積み降ろし作業は、誘導者をつけて、  
周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



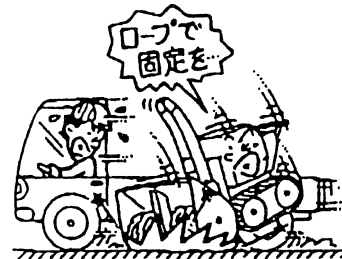


**ロープで確実に固定する。**

トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックに確実に固定してください。

**【守らないと】**

荷台から機械が転落したり、事故をまねくおそれがあります。

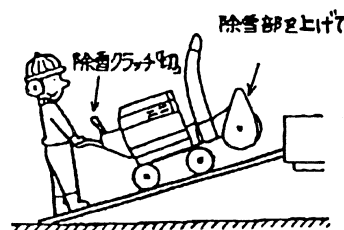


**積み込み・積み降ろし作業は、除雪クラッチが必ず切れている事を確認してから行う。**

トラックへの積み込み・積み降ろしは、除雪クラッチが必ず切れている事を確認してから行ってください。走行クラッチレバーを一度離すと除雪クラッチが切れます。

**【守らないと】**

傷害事故をまねくおそれがあります。

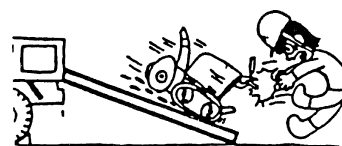


**アユミ板の上ではクラッチレバーと、変速レバーの高速・低速の切り換え操作厳禁。**

トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をしないように進路を定めて低速で行ってください。変速レバーを「中立」位置にしたり、走行クラッチ、サイドクラッチの操作はしないでください。

**【守らないと】**

転落などの事故をまねくおそれがあります。



## 4. 移動・作業時の注意項目

### ⚠ 危険

つまった雪や異物を取り除くときは、エンジンを停止して備え付けの雪かき棒で行う。

【守らないと】  
機械に巻き込まれて重傷を負うおそれがあります。



### ⚠ 危険

シャーボルトはエンジンを停止して交換する。

シャーボルトの交換は必ずエンジンを停止してから行ってください。

【守らないと】  
機械が動いたり、オーガ、ブロワが回転して重大事故を引き起こす可能性があります。

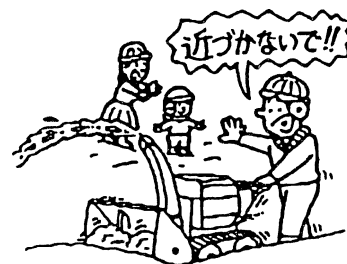


### ⚠ 危険

除雪作業中は機械のまわりに人や動物を近づけない。

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】  
思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



### ⚠ 警告

後進するときは低速で障害物に注意。

後進するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して、障害物と機械の間に挟まれないようにしてください。

【守らないと】  
機械に挟まれたり、転倒などの重大事故のおそれがあります。







### オーガ回転中は危険なので近づかない。

オーガ回転中は危険なので近づかないでください。また、除雪クラッチを操作するときは、周囲の安全を確かめてから行ってください。

#### 【守らないと】

オーガに巻き込まれて傷害事故の原因になることがあります。



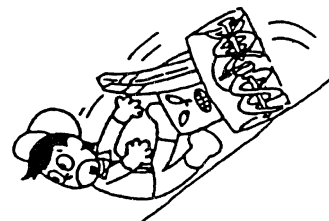
### 坂道は走行注意。

急な坂道は走行しないでください。

やむをえず坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付けて、低速でゆっくりと移動してください。

#### 【守らないと】

機械の横転、暴走など思わぬ事故を引き起こす原因となります。



### 坂道では駐車禁止。

#### 【守らないと】

機械が動き出し、事故の原因となります。

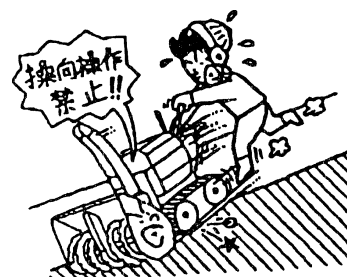


### 坂道での旋回レバー（サイドクラッチレバー）の操作禁止。

坂道の途中で旋回レバー（サイドクラッチレバー）の操作はしないでください。

#### 【守らないと】

滑り落ちたり、転倒などの事故の原因となります。



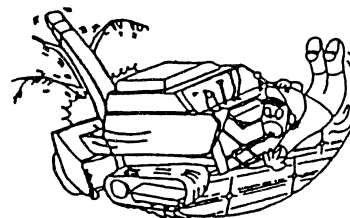


### 凍結時は十分注意し低速で。

凍結した滑りやすい路面ではなるべく作業しないでください。  
やむをえない場合は、十分注意し低速で行ってください。

#### 【守らないと】

転倒事故などの原因となります。



### わき見運転や手放し運転禁止。

#### 【守らないと】

傷害事故の原因となります。

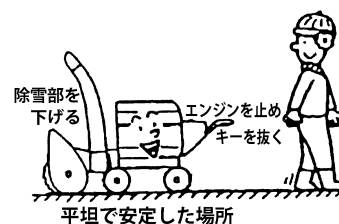


### 機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを止める。

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置き、除雪部を下げエンジンを止め、エンジンスイッチキーを抜いてください。

#### 【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。

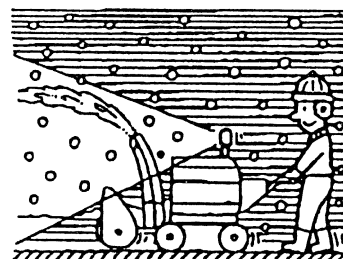


### 運転時は作業灯を点灯する。

#### 【守らないと】

視界不良により事故などの原因となります。

※この機械は、エンジンスイッチを「入」位置にすると作業灯が点灯します。エンジンスイッチを「入」位置にしても作業灯が点灯しない場合は、修理の上使用してください。





### 投雪方向には十分注意する。

人、自動車、建物などには十分注意して、安全な場所へ投雪してください。特に砂利道は危険です。

#### 【守らないと】

飛散物によりケガや破損など思わぬ事故の原因となります。



### エンジン始動時は、走行クラッチレバーから手を離し、除雪クラッチが切れている事を確認する。

#### 【守らないと】

機械が急発進してケガをするおそれがあります。

※この機械はクラッチが入っているとエンジンが始動しない構造になっています。エンジンが始動する場合は、修理の上使用してください。



### 機械の異常に気付いたらすぐにエンジン停止。

異物が当たったり、巻き付いたり、異常振動、異音、異臭などに気付いたら、すみやかにエンジンを停止し、高温部が冷めてから点検してください。

#### 【守らないと】

機械の故障、事故、ケガをまねくおそれがあります。

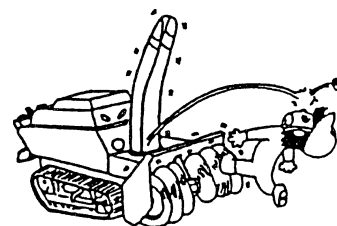


### 回転部に手・足・顔を近づけない。

回転している部分やシュータをのぞき込んだり、手・足・顔を絶対に近づけないでください。

#### 【守らないと】

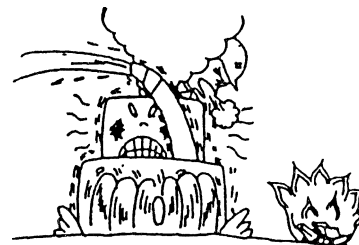
巻き込まれたり、飛散物などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。





燃えているものの上やその近くは走行禁止。

【守らないと】  
燃料やオイルなどに引火して、火災になるおそれがあります。



急発進・急旋回・急停止やスピードの出しすぎ禁止。

発進・停止はゆっくり行ってください。旋回するときは、十分速度を落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では十分速度を落としてください。

【守らないと】  
機械の破損、事故の原因となることがあります。



運転時は路肩に注意。

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

【守らないと】  
転落事故を引き起こすおそれがあります。



傾斜面を横切っの作業は行わない。

【守らないと】  
転倒事故を引き起こすおそれがあります。



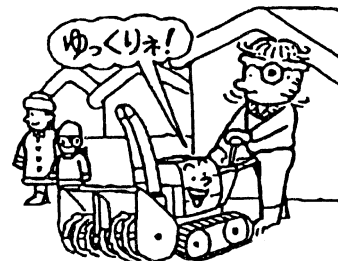
**注意**

周囲の安全を確かめ低速で発進する。

急発進や急旋回をしないで周囲の安全を確認してゆっくりと発進してください。

**【守らないと】**

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

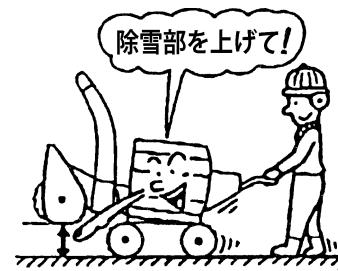


**注意**

移動の際は、除雪部を上げ、除雪クラッチが切れている事を確認する。

**【守らないと】**

巻き込まれて、思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



**注意**

オーガへの巻き込まれ注意。

除雪作業時以外は、除雪クラッチを「入」にしないでください。オーガが回り危険です。

**【守らないと】**

巻き込まれて傷害事故の原因になることがあります。



## 5. 作業終了後・格納時の注意項目

### **危険**

シートなどは機械が十分冷めてからかける。

【守らないと】  
火災事故を引き起こすことがあります。



### **警告**

機械の清掃・点検をするときはエンジンを停止する。

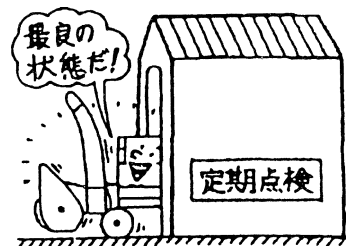
【守らないと】  
機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。



### **注意**

定期点検整備を受けてください。

1年ごとに定期点検を受け、各部の保守をしてください。  
【守らないと】  
整備不良による事故や、機械の故障を生じるおそれがあります。



### **重要**

長期格納時は燃料を抜き、バッテリーを外す。

長期間使用しないで格納する場合は、燃料タンク・キャブレータの燃料を抜き、バッテリーを取り外してください。

【守らないと】  
燃料が変質してエンジンの不具合を起こしたり、故障の原因となることがあります。

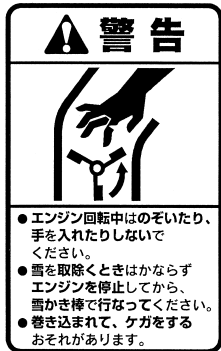


## 6. 警告ラベルの貼り付け位置

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへの危険を知らせる大事なものです。ラベルが損傷した場合はできるだけ早く貼り替えてください。なお、注文の際には、この図に示す部品番号をお知らせください。

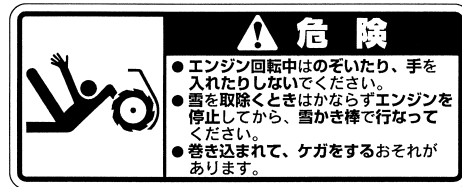
品番 91194-004

品名 ブロワ警告ラベル



品番 91193-006

品名 オーガ危険ラベル (ヨコ)



品番 91195-001

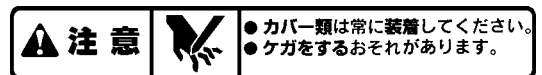
品名 マフラー注意ラベル



品番 91195-010

品名 カバー注意ラベル

(左右サイドカバー)



1章 安全に作業するために必ずお守りください

品番 79902-B88-030

品名 パネルマークA

警告		<ul style="list-style-type: none"> <li>●傾斜面での走行や本機をトラックに積込むときは変速レバーを『中立』位置にしないでください。</li> <li>●傾斜面では停止しないでください。</li> <li>●傾斜面ではサイドクラッチを操作しないでください。</li> <li>●本機がすべり落ちてケガをするおそれがあります。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●発進するときは、かならず進行方向の安全を確認して、ゆっくり走行クラッチを『入』位置にしてください。</li> <li>●ケガをするおそれがあります。</li> </ul>

注意		<ul style="list-style-type: none"> <li>●作業前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。</li> <li>●操作装置位置と機能をよく理解してから、運転してください。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●点検整備をするときはエンジンを停止してください。</li> <li>●ケガをするおそれがあります。</li> </ul>

品番 91193-019

品名 デッドマン危険ラベル

危険		絶対に
		クラッチレバーを固定したまま運転をしないでください。

品番 91194-002

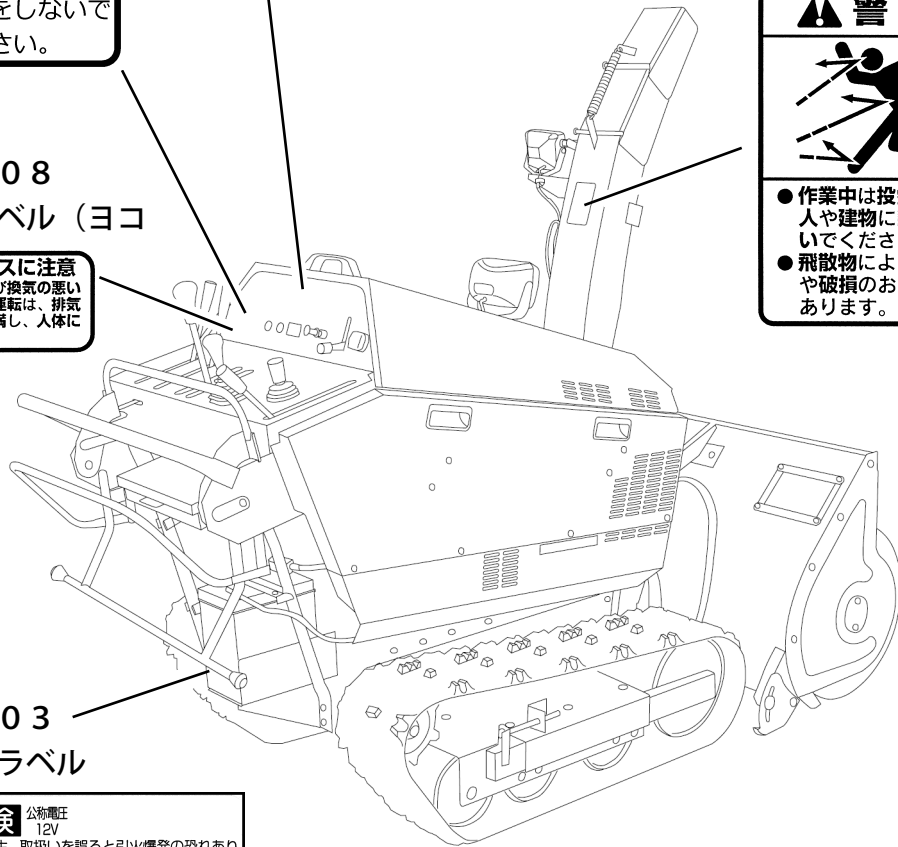
品名 飛散警告ラベル

警告	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●作業中は投雪口を人や建物に向けないでください。</li> <li>●飛散物によりケガや破損のおそれがあります。</li> </ul>	

品番 91194-008

品名 排気ガス警告ラベル (ヨコ)

警告		<p>排気ガスに注意</p> <p>室内および換気の悪い場所での運転は、排気ガスが充満し、人体に有害です。</p>
----	--	---



品番 91193-003

品名 バッテリー危険ラベル

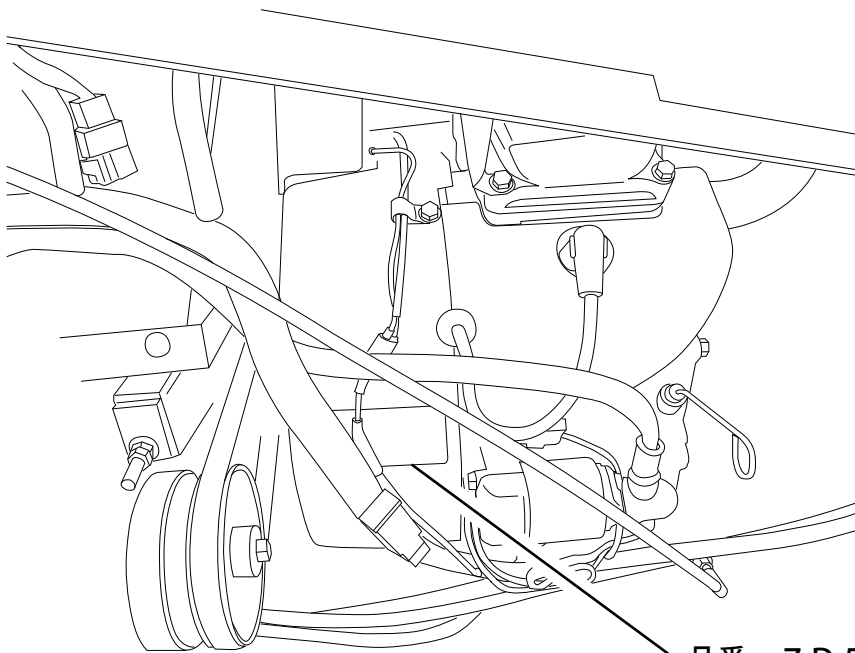
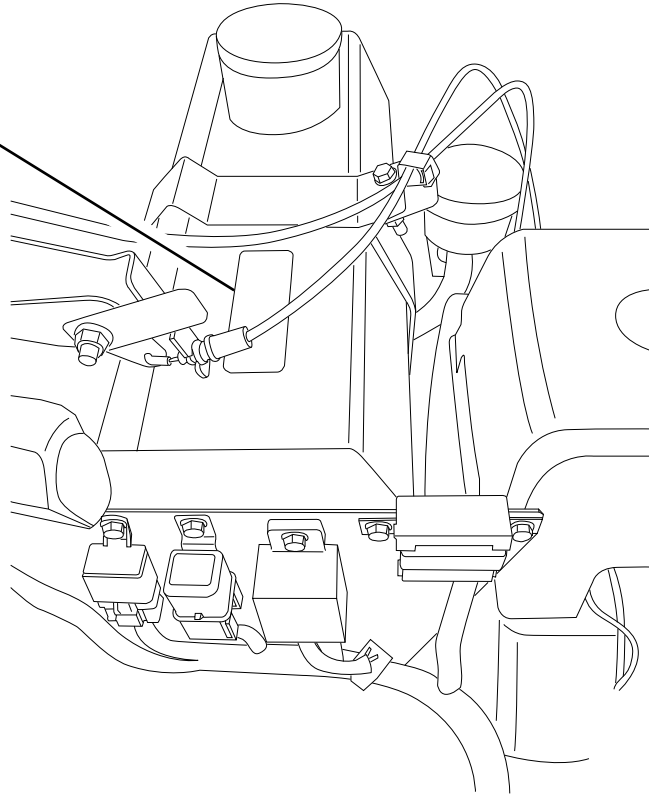
<p>火気禁止 メガネ着用 こども禁止</p> <p>硫酸注意 説明書熟読 爆発注意</p>	<p>危険 公称電圧 12V</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり</li> <li>●工具等でショートやスパークをさせない。充電は風通しのよい所で行う</li> <li>●プースターケーブルの使用は取扱説明書に従う</li> <li>●バッテリー液(希硫酸)で失明ややけどの恐れあり</li> <li>●液がつかいたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける</li> <li>●爆発の恐れあり、液面はLOWER以下で使用しない</li> <li>●液漏れの恐れあり、UPPER以上に補水しない</li> </ul>
--	---



1章 安全に作業するために必ずお守りください

品番 91193-004

品名 火気厳禁ラベル (ガソリン)



品番 7D5-24877-00

品名 エンブレムコーション



## 2章 機械の調子が悪いときは

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに70ページの「13章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

●型式名と製造番号

●ご使用状況は？

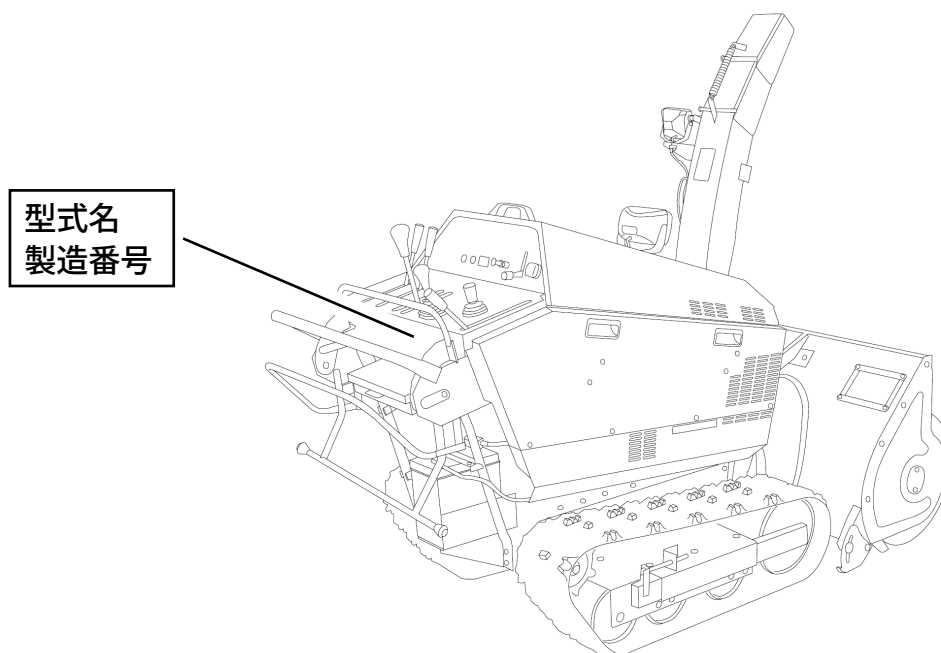
(車速や、どんな作業をしていたときに)

●どのくらい使用されましたか？

アワーメータを参照ください。(P.26参照)

(約□□時間使用后)

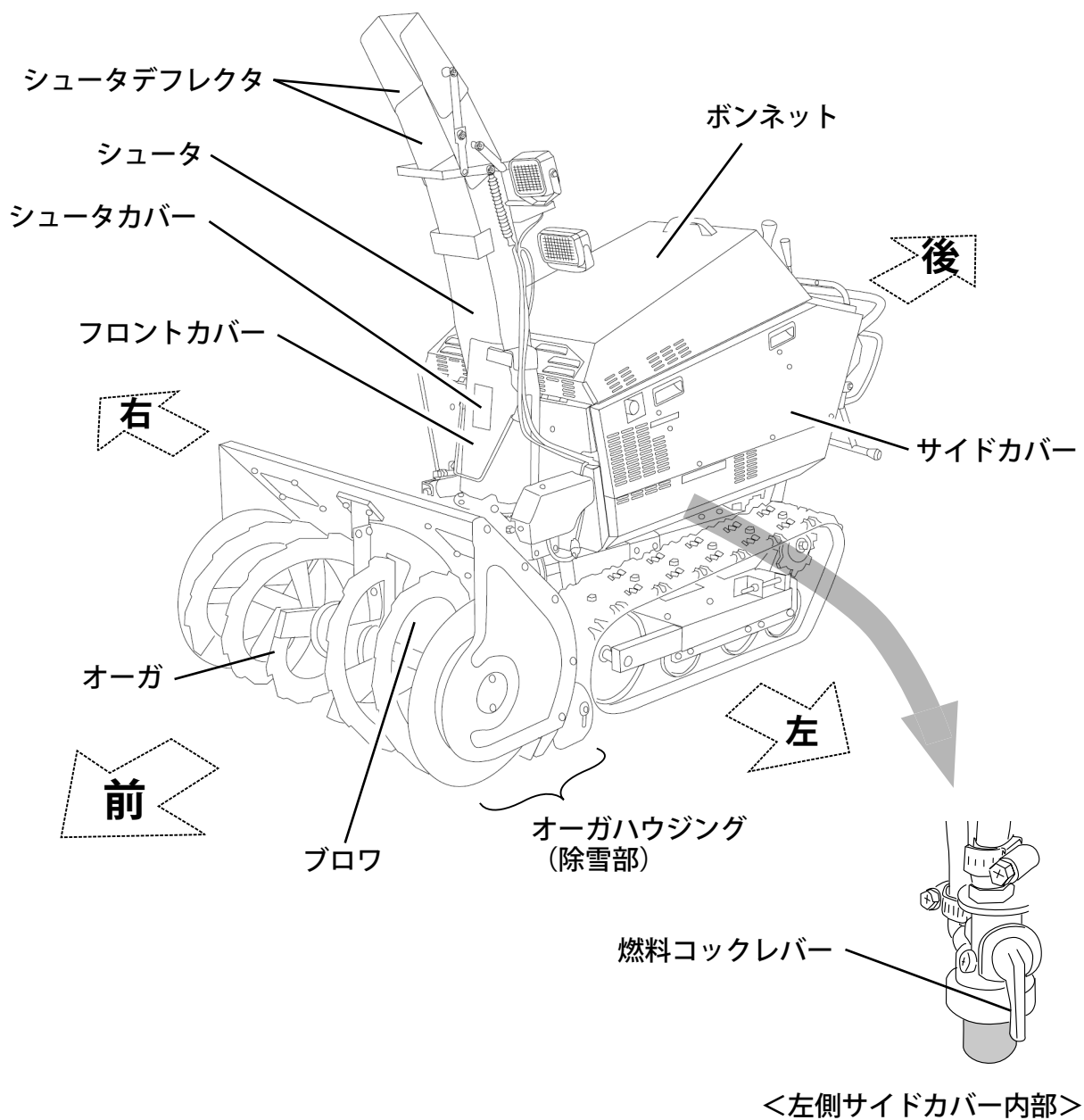
●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。



補修部品の供給年限について

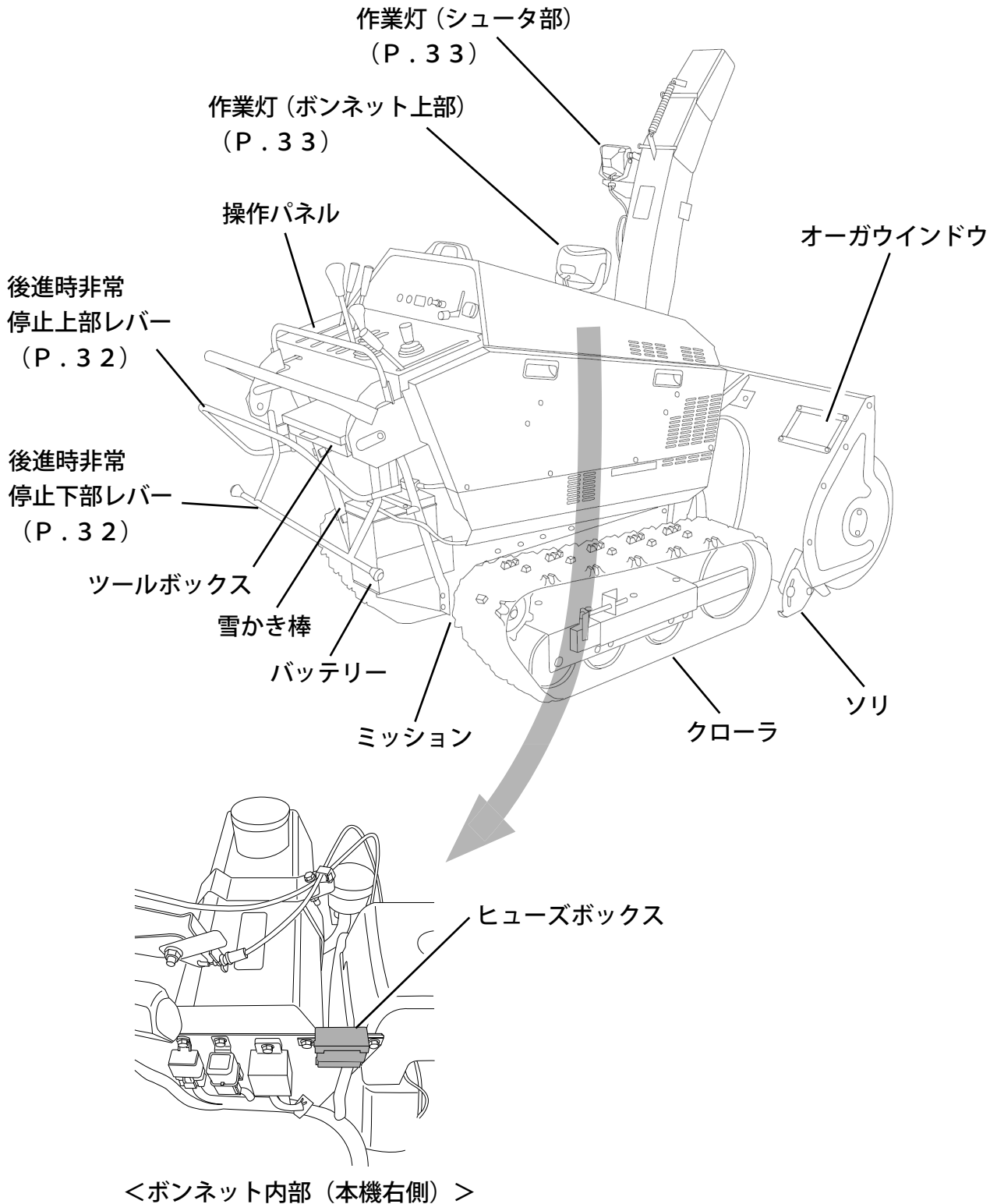
この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

### 3章 各部のなまえ

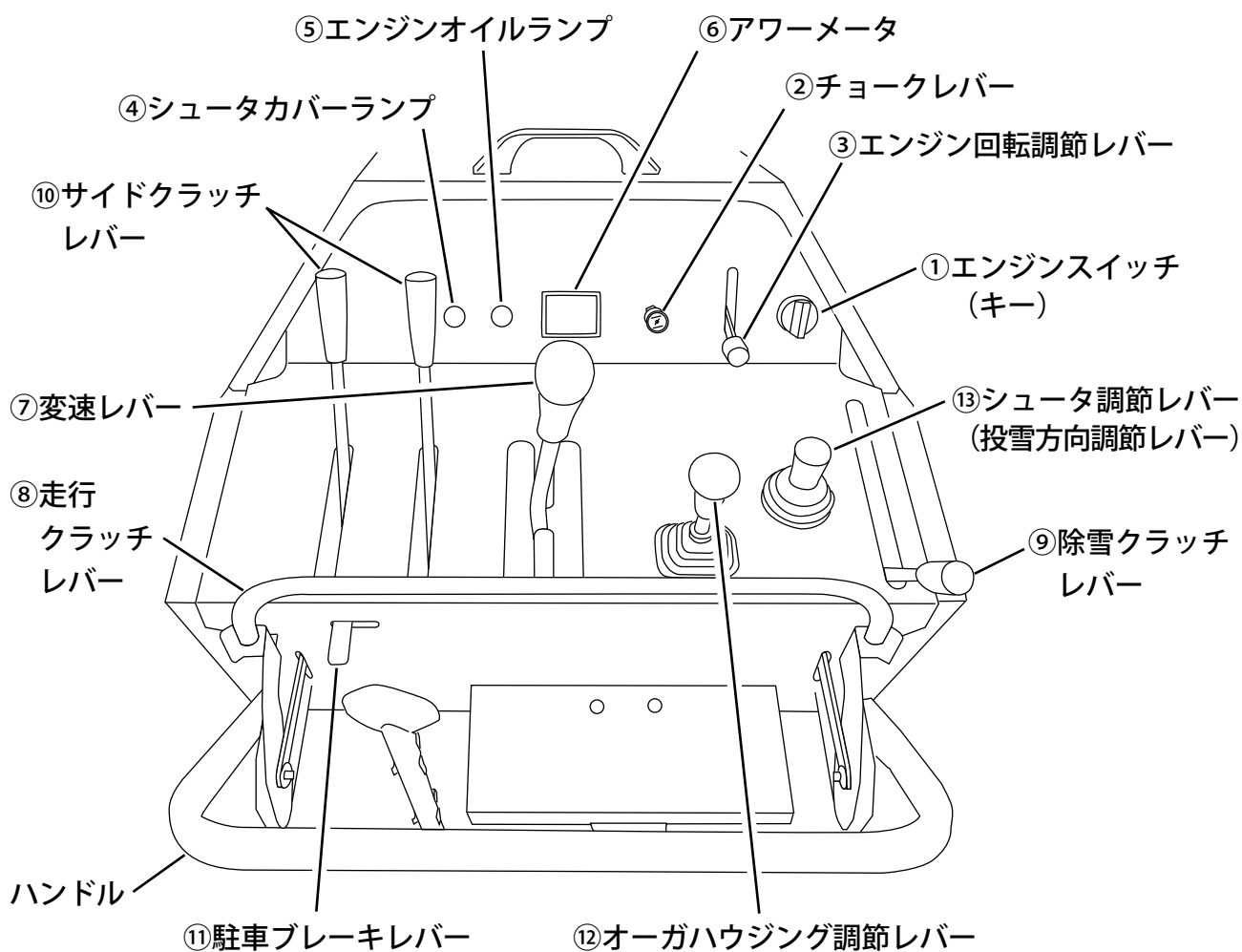


**注意**

オーガウインドウが外れた状態や、破損した状態でオーガを回転させないでください。  
外れたときは、元の状態に取り付けてください。  
破損したときは、新しいものに交換してください。



## 4章 各操作部のはたらき



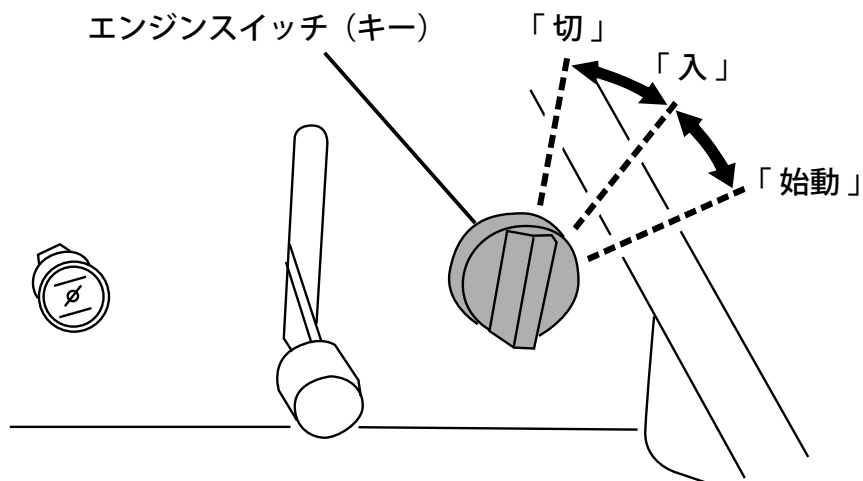
### ①エンジンスイッチ

エンジンを始動、運転、停止させるときに操作します。

「切」・・・エンジンを停止する位置です。(キーの抜き取り、差し込みができます。)

「入」・・・エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

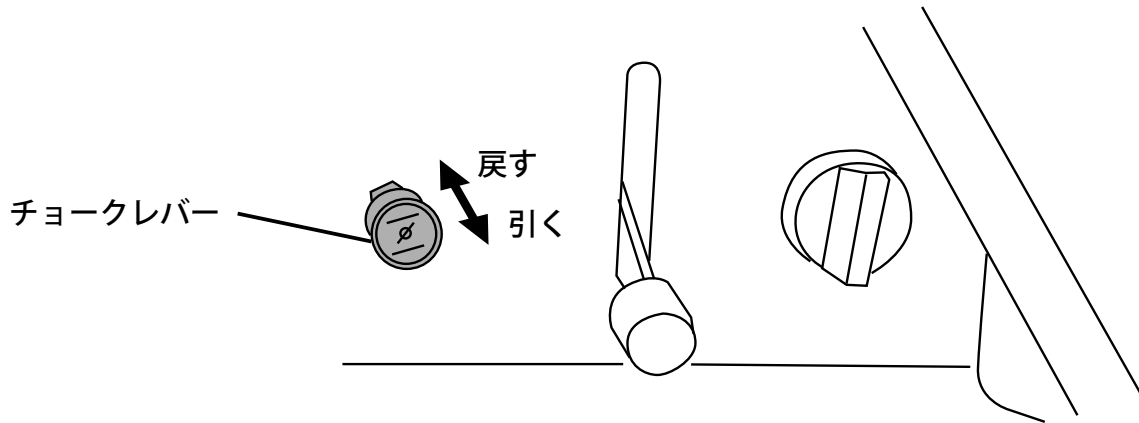
「始動」・・・エンジンを始動させるときこの位置まで回します。エンジンが始動したら手をキーから離してください。エンジンスイッチキーは自動的に「入」位置に戻ります。



## 4章 各操作部のはたらき

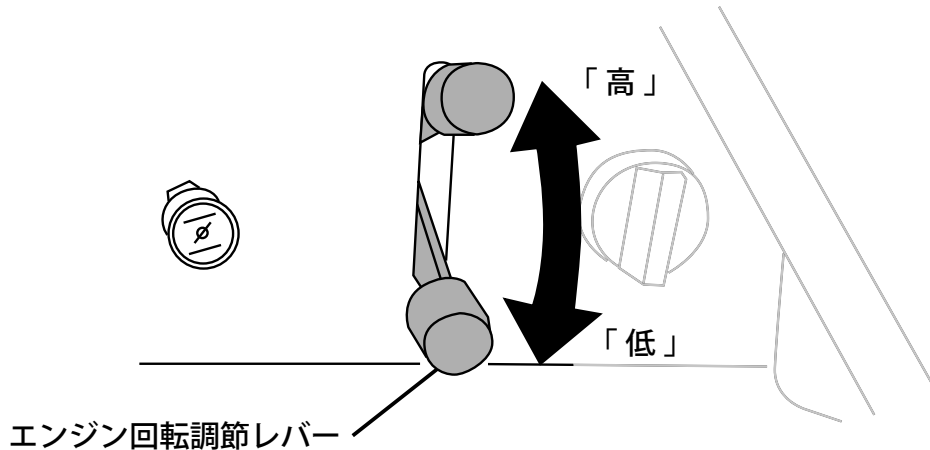
### ② チョークレバー

寒いときやエンジンがかかりにくいときに操作します。  
寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョークレバーを引いた状態にします。  
エンジンが始動したら、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に戻します。  
また、エンジンが暖まっているときは操作不要です。



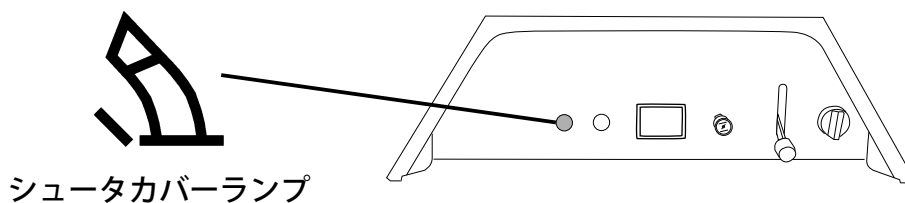
### ③ エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。  
「高」側へレバーを操作すると回転は上がり、「低」側へレバーを操作すると回転は下がります。  
作業時は「高」位置でご使用ください。



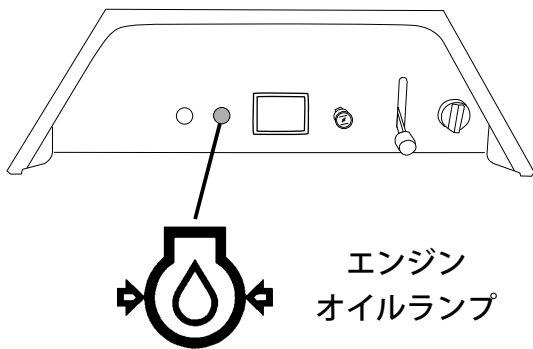
### ④ シュータカバーランプ

シュータカバーが確実にセットされていないとき、またはシュータカバーが外れたとき点灯し、エンジンが停止します。  
ランプが点灯中は、エンジンは始動しません。



⑤エンジンオイルランプ

エンジンスイッチを「入」位置にすると点灯します。  
エンジンが始動すると、エンジンオイルランプは消灯します。



[重要]

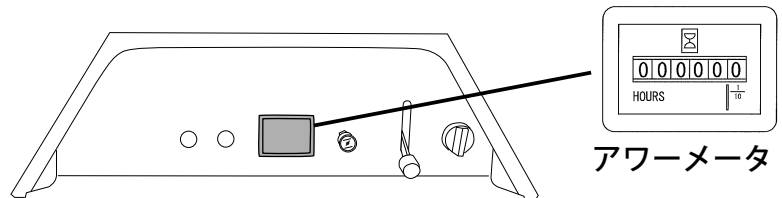
エンジンが始動してもエンジンオイルランプが消灯しない場合は、エンジンオイル量が少ない可能性があります。

ただちにエンジンを停止し、エンジンオイル量の点検、補給を行ったのちご使用ください。

(P. 54参照)

⑥アワーメータ

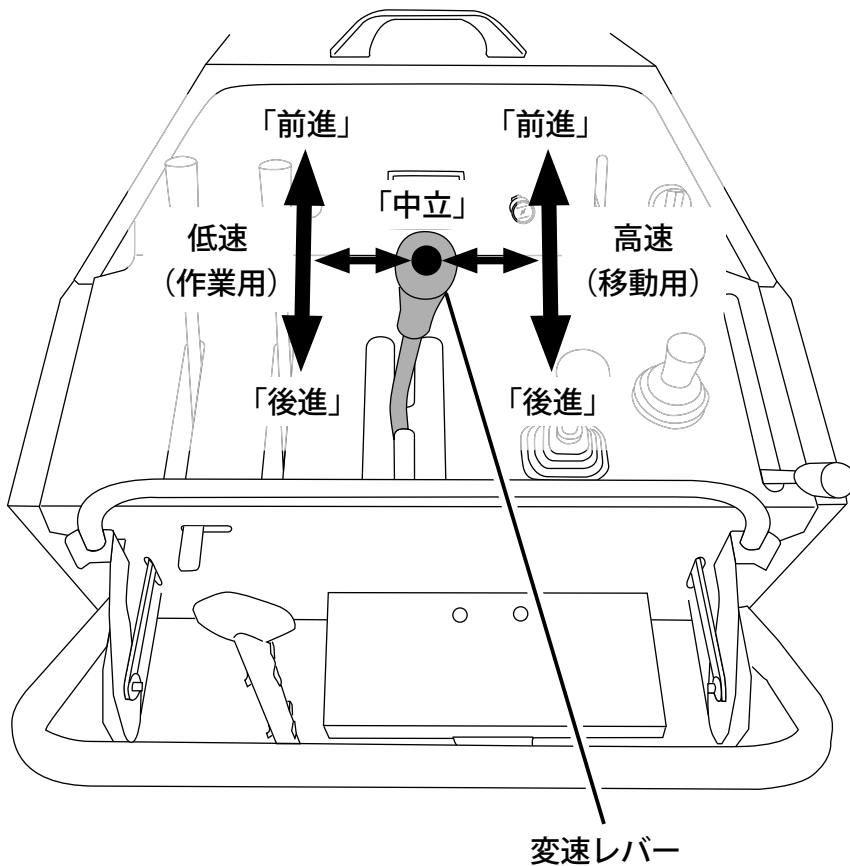
本機を使用した時間を示します。  
定期点検時期の目安にしてください。



⑦変速レバー

除雪機を前進・後進させるときに操作します。

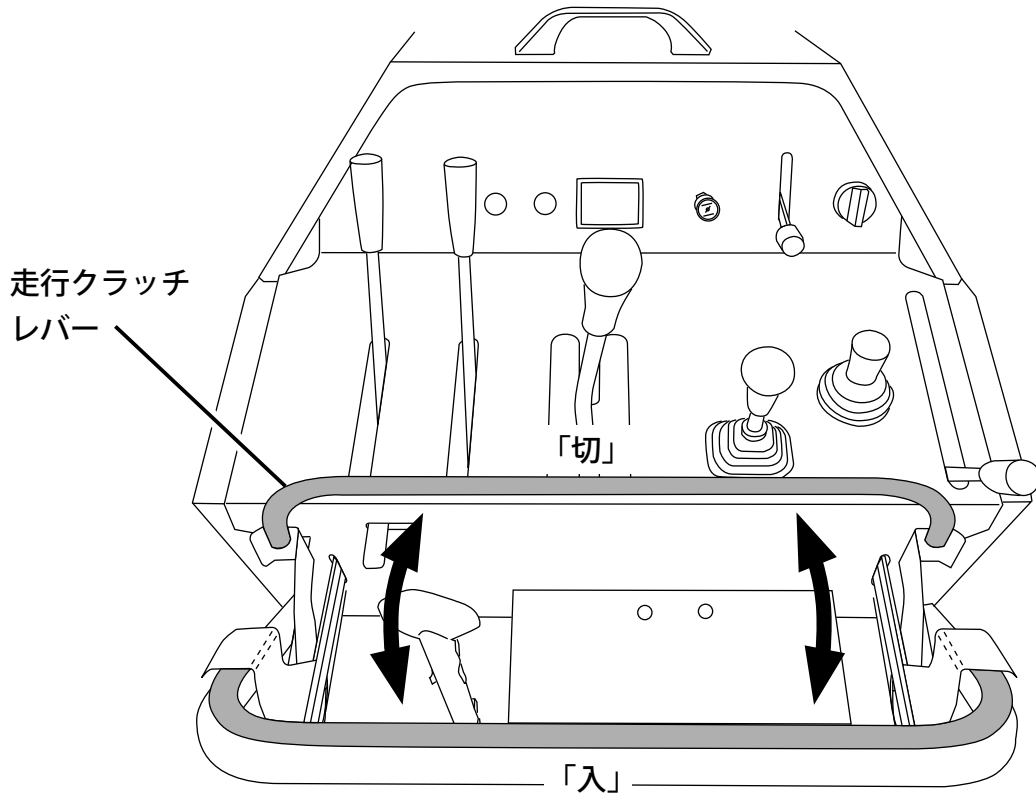
低速側（作業用）、高速側（移動用）に分かれ、それぞれ前進、後進の速度を無段階に調節することができます。



⑧ 走行クラッチレバー

ミッションへの動力の断接をするときに操作します。

走行クラッチレバーを握り「入」位置にすると、ミッションに動力が伝わり、離せば「切」位置になり動力が伝わりません。



**⚠ 危険**

クラッチレバーを改造したり、固定して運転しないでください。  
本機が停止せず、ひかれ・挟まれなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

**[参考]**

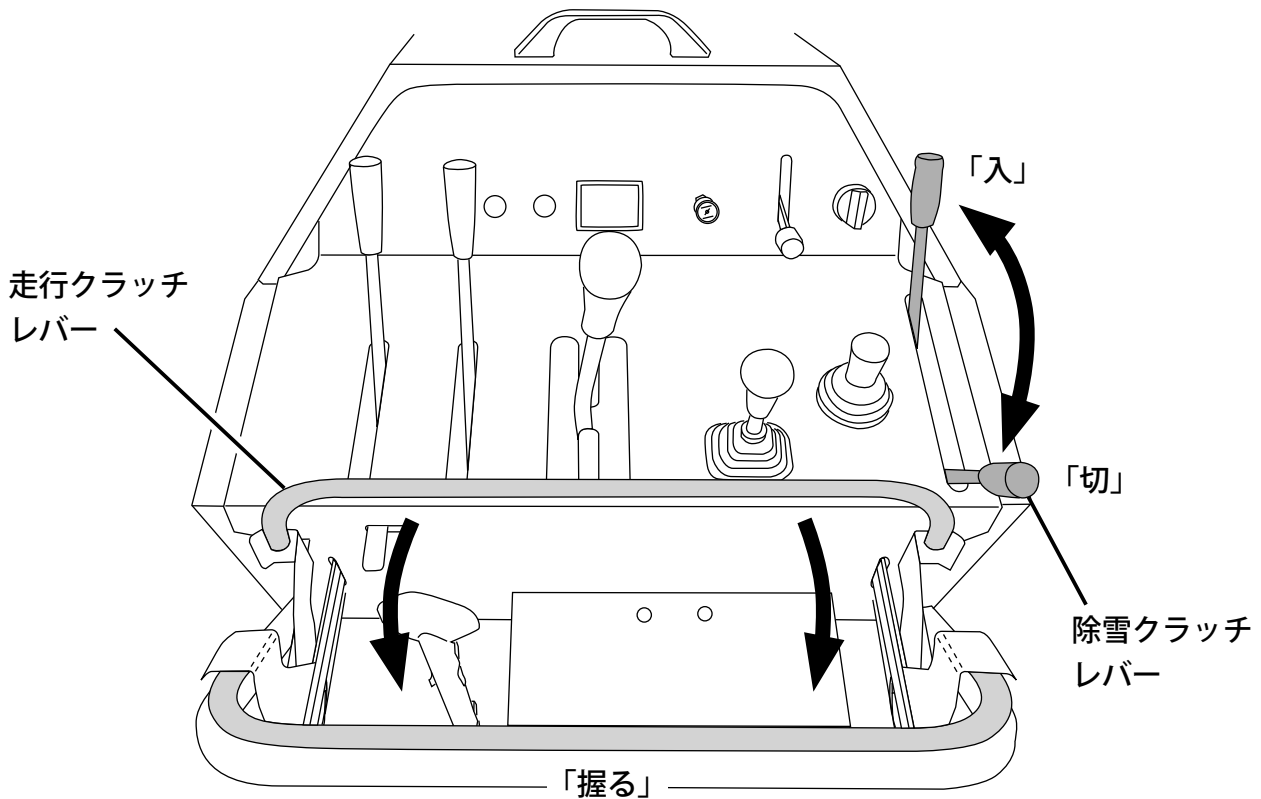
走行クラッチレバーと変速レバーには連動機構が装備されています。  
走行クラッチレバーを離すと（「切」位置にすると）、変速レバーは中立位置付近へ戻ります。走行クラッチレバーを握り、「入」位置にしないと変速レバーは任意の位置に固定できません。



⑨除雪クラッチレバー

オーガとブロワを回転させるときに操作します。

除雪クラッチレバーを「入」位置にするとオーガとブロワが回転し、「切」位置にするとオーガとブロワの回転は止まります。



[参考]

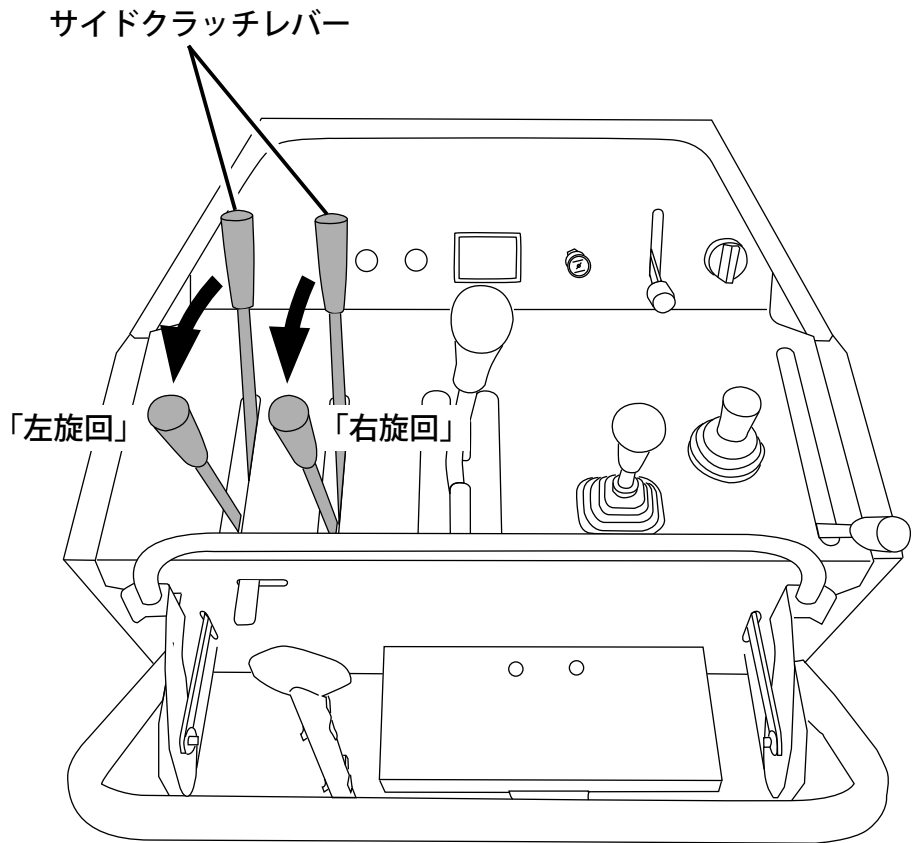
除雪クラッチレバーと走行クラッチレバーには連動機構が装備されています。

走行クラッチレバーを握った状態（「入」位置にした状態）で、除雪クラッチレバーを「入」位置にすると除雪クラッチが入り、除雪と走行ができます。

この状態から走行クラッチレバーを離せば（「切」位置にすると）、除雪クラッチと走行クラッチが切れます。

⑩サイドクラッチレバー

除雪機の進行方向を変えるときに操作します。  
右旋回・・・右側のサイドクラッチレバーを引く。  
左旋回・・・左側のサイドクラッチレバーを引く。



⑪ 駐車ブレーキレバー

本機を駐車するときに操作します。



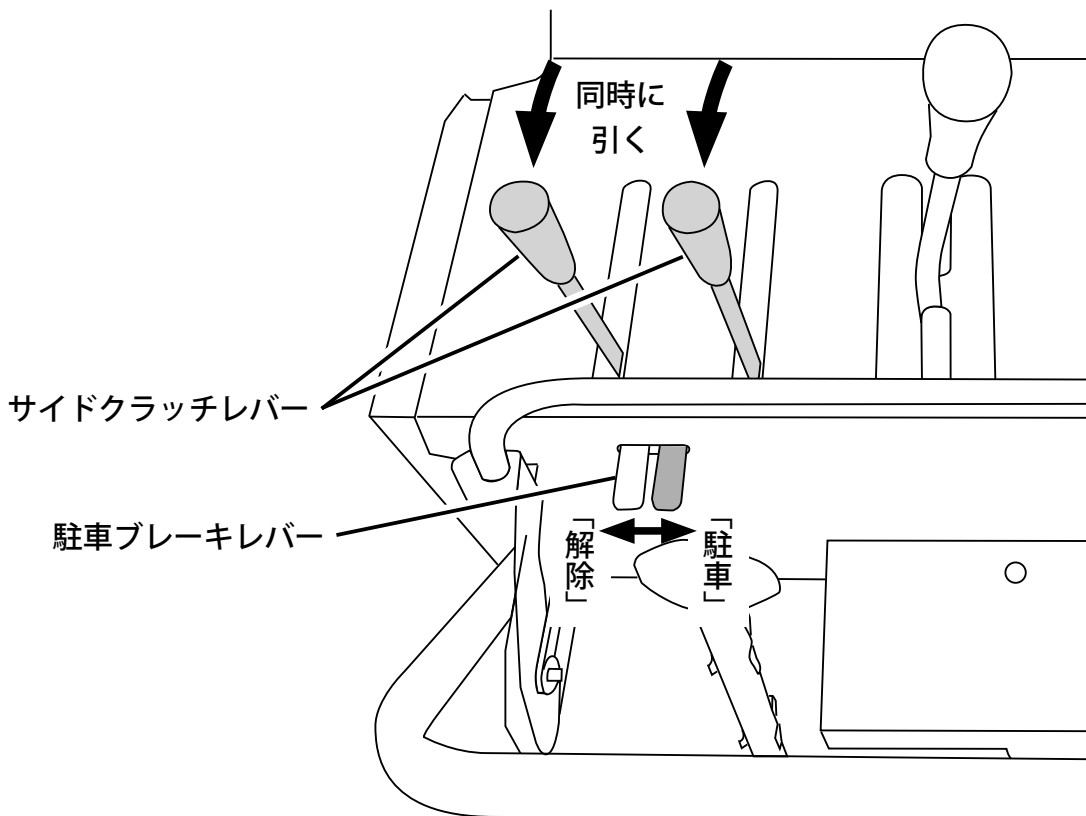
本機を駐車させる際に、急な坂道やアユミ板の上では駐車させないでください。  
操作中に本機が動き、ケガをすることがあります。

< 駐車ブレーキのかけかた >

1. 左右のサイドクラッチレバーを同時に強く引きます。
2. サイドクラッチレバーを引いたままの状態ですべての駐車ブレーキレバーを駐車位置にします。
3. 駐車ブレーキレバーを駐車位置にしたままの状態ですべてのサイドクラッチレバーから手をはなします。  
(左右のサイドクラッチレバーが引かれたままの状態であれば本機は動きません。)

< 駐車ブレーキの解除のしかた >

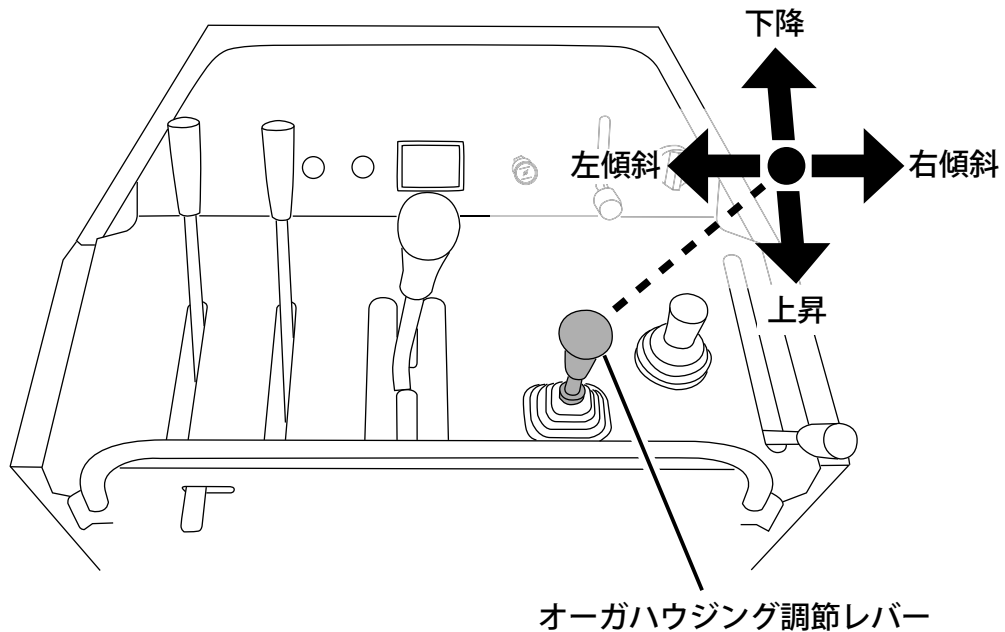
1. 左右のサイドクラッチレバーを同時に強く引きます。  
(駐車ブレーキレバーが自動的に解除位置に戻ります。)
2. 左右のサイドクラッチレバーから手をはなします。



⑫オーガハウジング調節レバー

オーガハウジング（除雪部）の高さ、左右の傾きを調節するときに操作します。  
レバーから手を放すと、その位置で除雪部が止まります。

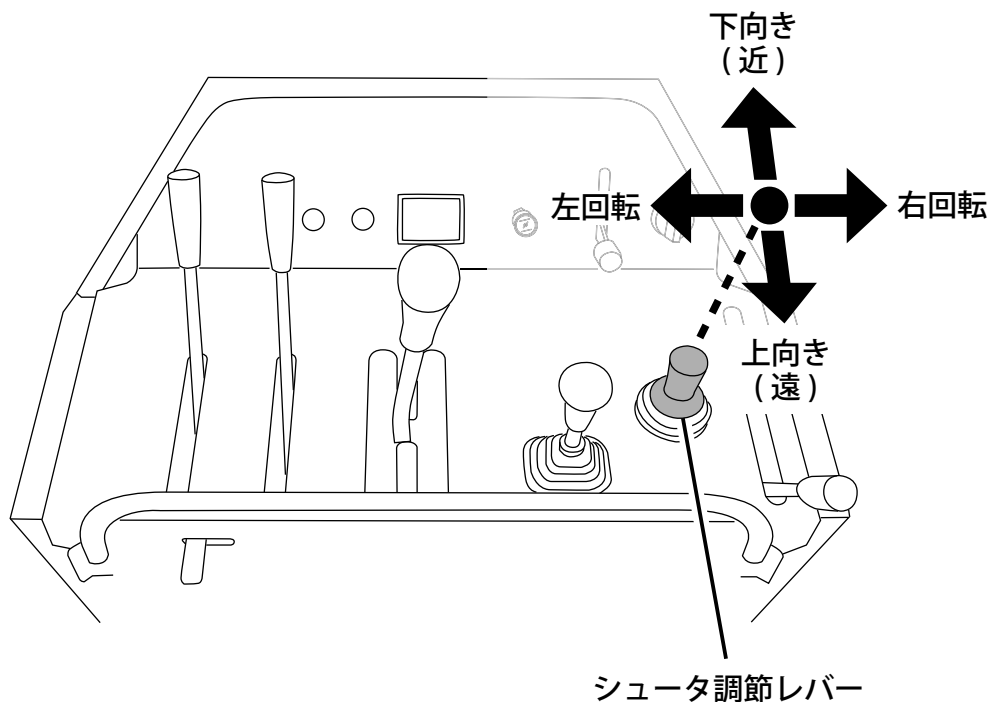
（オーガハウジング調節レバーは、エンジンが運転していないと操作できません。）



⑬シュータ調節レバー（投雪方向調節レバー）

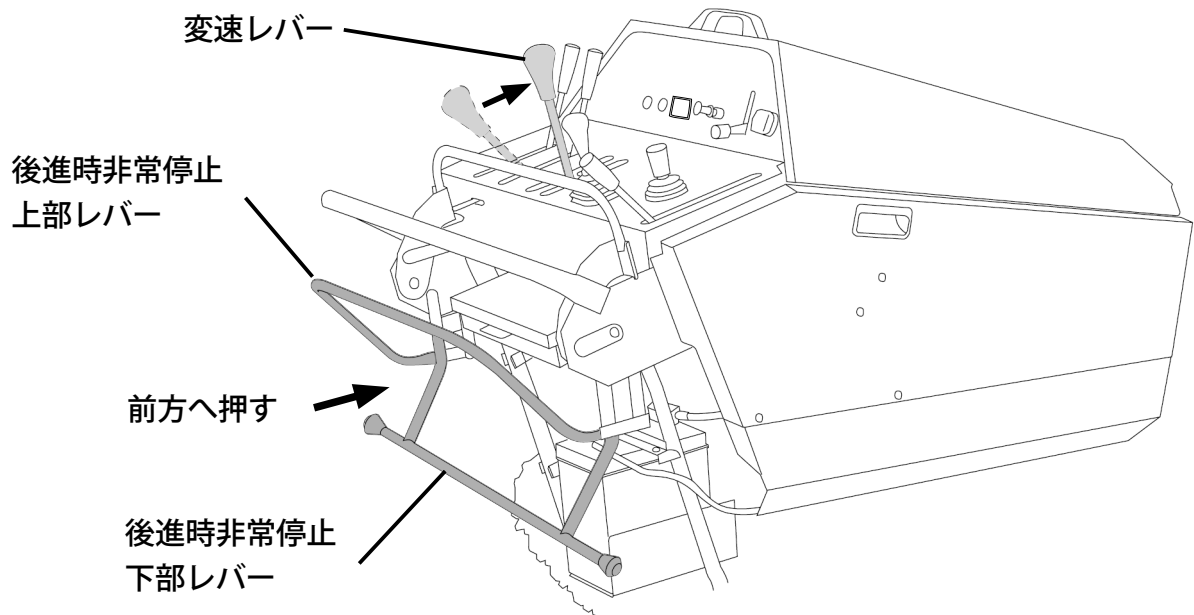
投雪距離と方向を調節するときに操作します。

シュータ調節レバーは、エンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作すると、バッテリーが消耗します。



⑭後進時非常停止上部レバー・後進時非常停止下部レバー

走行クラッチレバーが「入」状態の時、後進時非常停止上部レバー・後進時非常停止下部レバーを強く押すと変速レバーが「中立」位置付近へ戻ります。



[参考]

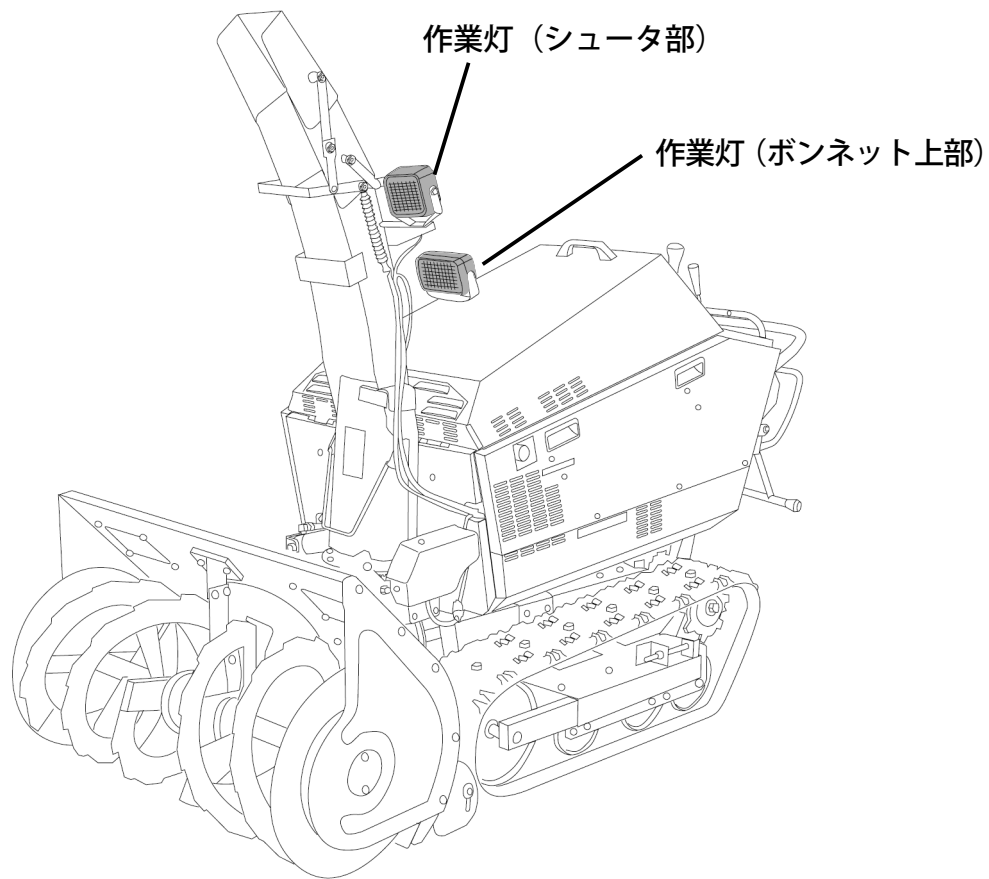
手で変速レバーを保持していると、後進時非常停止上部レバー・後進時非常停止下部レバーを押しても変速レバーが「中立」位置付近へ戻らず、本機は停止しません。

**⚠ 危険**

- ・後進時非常停止上部レバー・後進時非常停止下部レバーに変形が認められた場合は、お買い上げいただいた販売店へ部品の交換を依頼してください。変形等があった場合、安全装置が正常に作動せず、除雪機が停止しない可能性があります。
- ・作業前には必ず、後進時非常停止上部レバー・後進時非常停止下部レバーが正常に作動することを確認してください。守らないと、緊急時に安全装置が作動せず、死亡事故や重大な事故をまねくおそれがあります。

### ⑮作業灯

作業灯は、エンジンスイッチを「入」位置にすると点灯し、エンジンスイッチを「切」位置にすると消灯します。



## 5章 運転前の準備・点検

快適で安全な作業をするためには、機械の状態をいつも最良にしておくことが大切です。運転前には、機械の始業点検を行ってください。



1. 点検・整備を行うときは、必ず平坦なところで除雪部を接地させて、エンジンを停止してから行ってください。
2. 燃料補給時は、くわえタバコ等火気厳禁です。燃料補給後は燃料タンクキャップを確実にしめ、燃料タンクや燃料パイプ等からの燃料もれがないか点検してください。守らないと火災事故の原因になります。
3. 燃料は給油口の口元まで入れず、所定の給油限界位置まで補給してください。入れすぎると燃料が燃料タンクキャップからにじみ出ることがあり危険です。
4. 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布などで完全に拭き取り、火災、環境に注意し、処分してください。
5. エンジンが熱い間は、点検・整備等は絶対にしないでください。火傷をするおそれがあります。



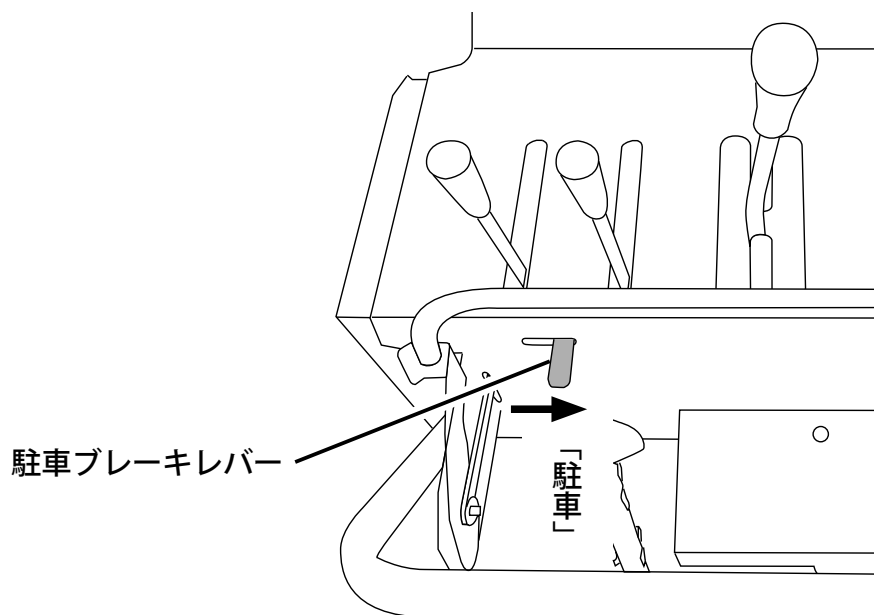
点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。機械に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

### 始業点検一覧表

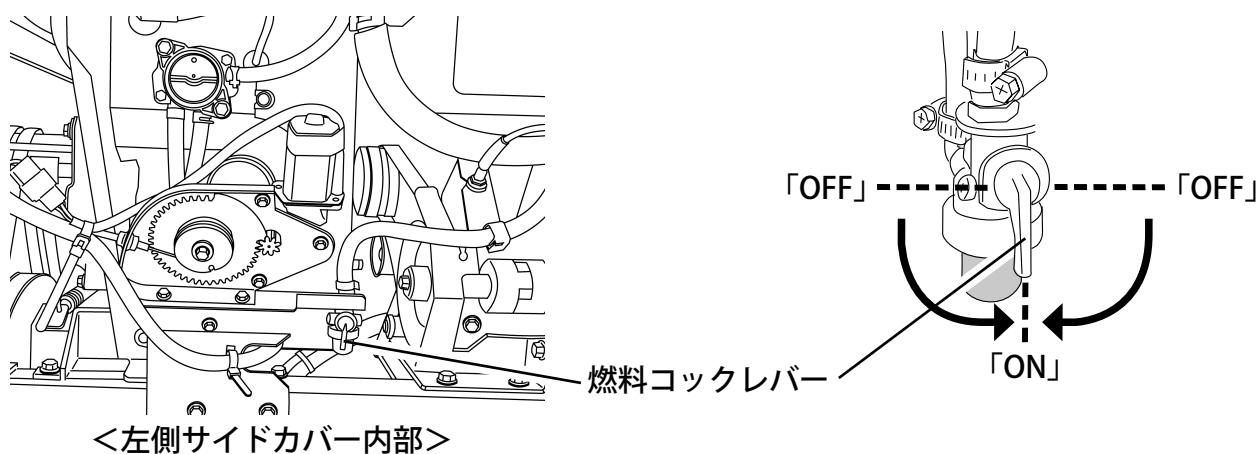
点検・調整箇所	種類・規定量	内容	ページ
走行クラッチレバーと除雪クラッチレバーの連動	—	点検	27
燃料	無鉛レギュラーガソリン 15リットル	点検・補給	53
エンジンオイル	4サイクルガソリンエンジンオイル SAE 5W-30 SE級以上 1.5リットル	点検・補給	54
フューエルストレーナ	—	点検・清掃	58
ミッションオイル	ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD級以上 2.8リットル	点検・補給	60
クローラ	—	点検	62
オーガ	—	点検	63
オーガ・ブロワのシャーボルト	—	点検・交換	63
ソリ	—	点検	64
ヒューズ	—	点検	65
バッテリー	—	点検・補充電	66
電気部品・配線コード	—	点検	—
各部の凍結・異物	—	点検	—
各部の締め付け	—	点検	—
各部の作動状態	—	点検	—
前回作業時の異常箇所	—	点検	—

## 6章 エンジンのかけかた

1. 駐車ブレーキレバーが「駐車」位置にあることを確認します。

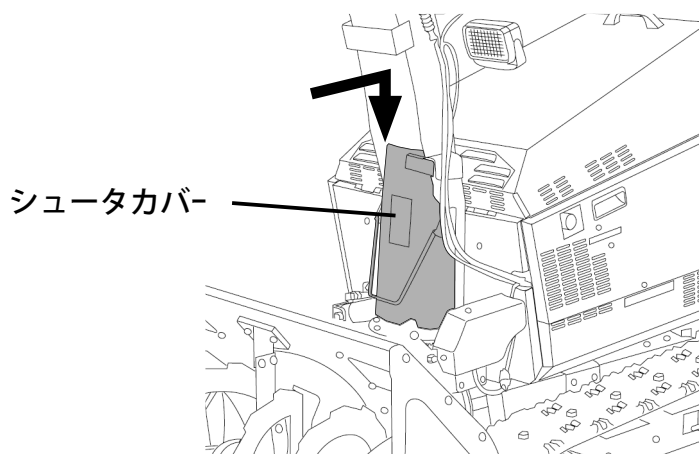


2. 燃料コックレバーが「OFF」位置になっている場合は、「ON」位置にします。



3. シュータカバーが確実に取り付けられているか確認します。

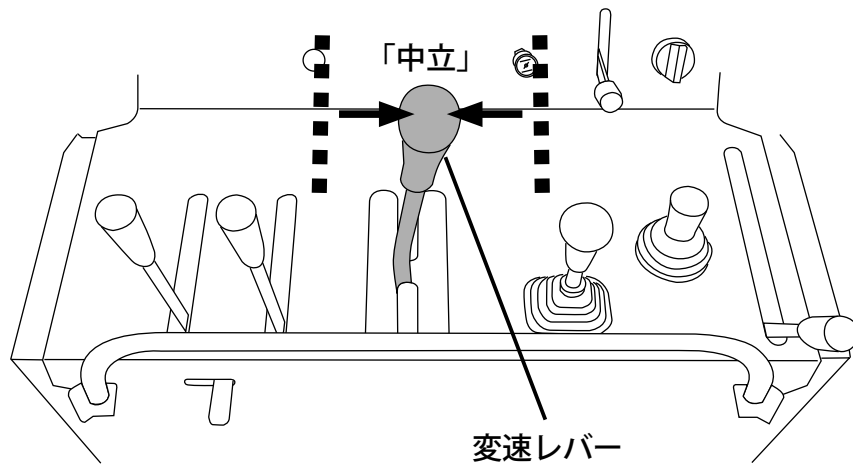
シュータカバーが確実に取り付けられていないと、シュータカバーランプ（P. 25参照）が点灯し、エンジンが始動しないしくみになっています。



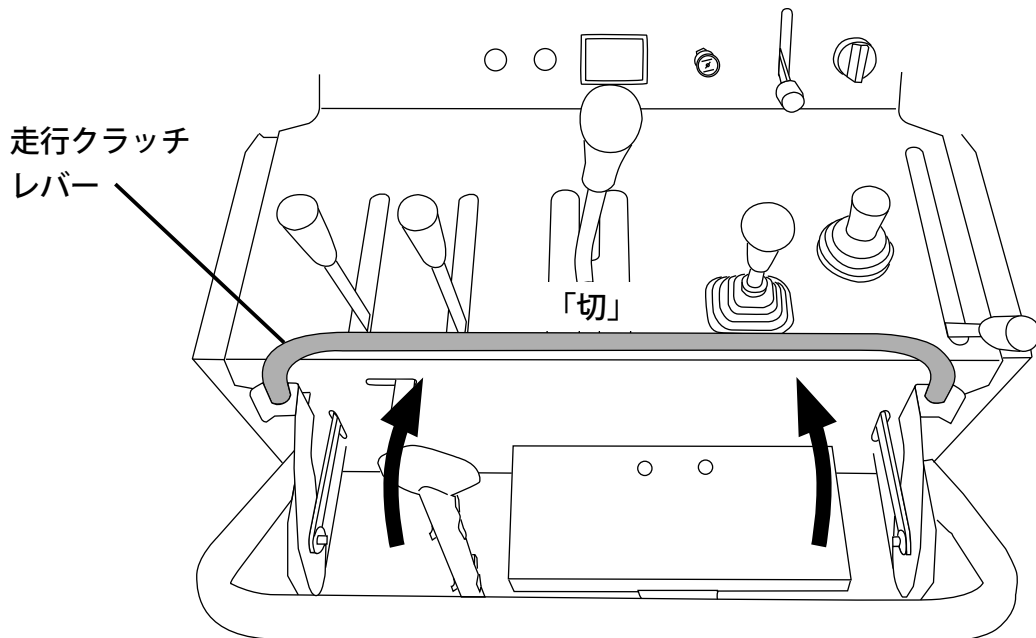


## 6章 エンジンのかけかた

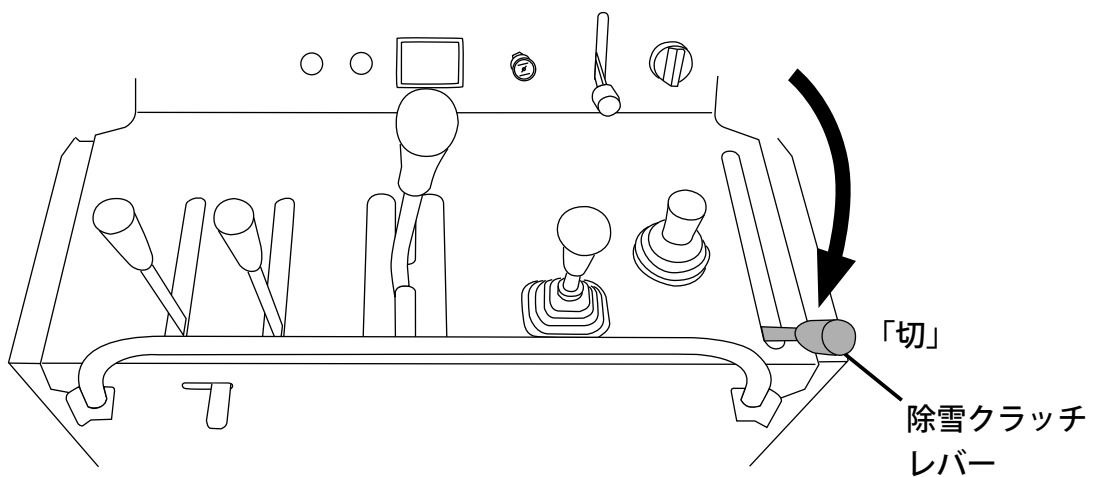
4. 変速レバーが「中立」位置にあることを確認します。



5. 走行クラッチレバーが「切」位置にあることを確認します。

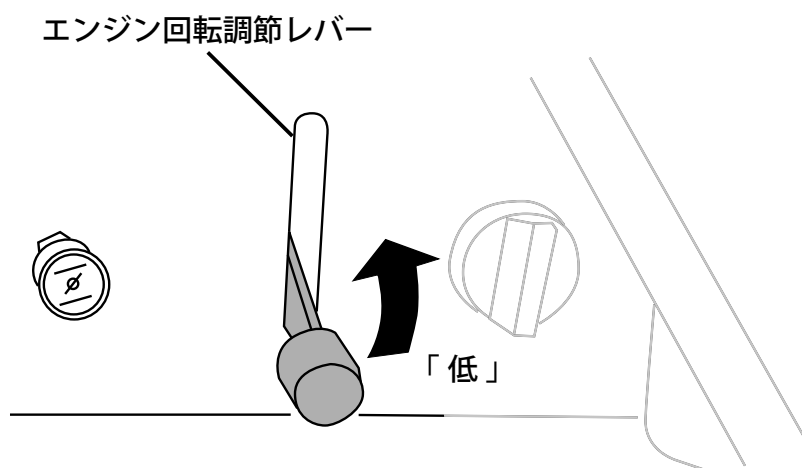


6. 除雪クラッチレバーが「切」位置にあることを確認します。

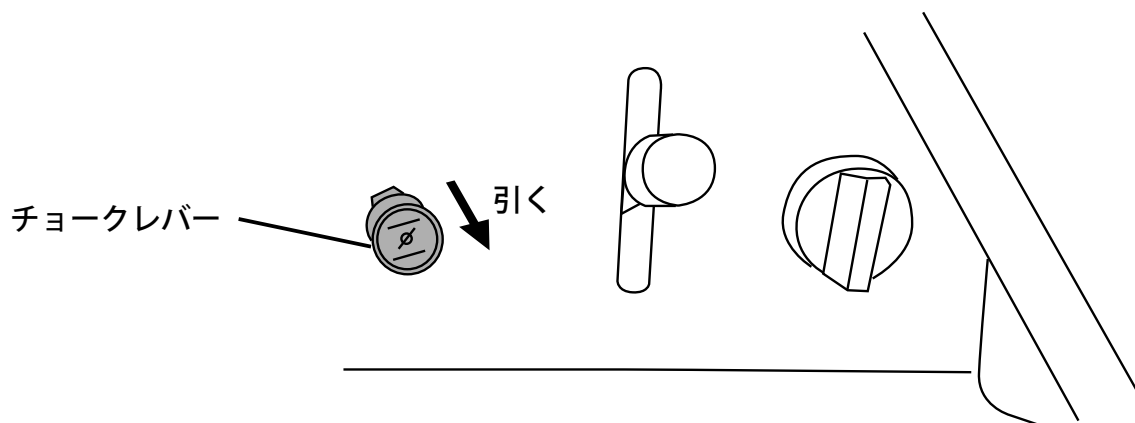


## 6章 エンジンのかけかた

7. エンジン回転調節レバーを矢印の方向に少し動かします。



8. エンジンが冷えているときは、チョークレバーを引いた状態にします。

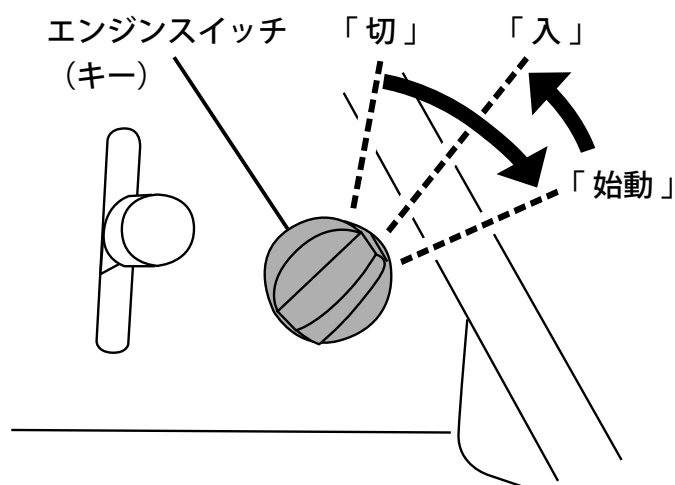


9. エンジン始動します。

エンジンスイッチキーを「始動」位置まで回し、セルモータを回します。

エンジンが始動したら、キーから手を離してください。

(キーは「入」位置まで自動的に戻ります。)



### [重要]

セルモータを回して5秒以内にエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動の操作をしてください。

10. エンジン始動後は、負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

**[重要]**

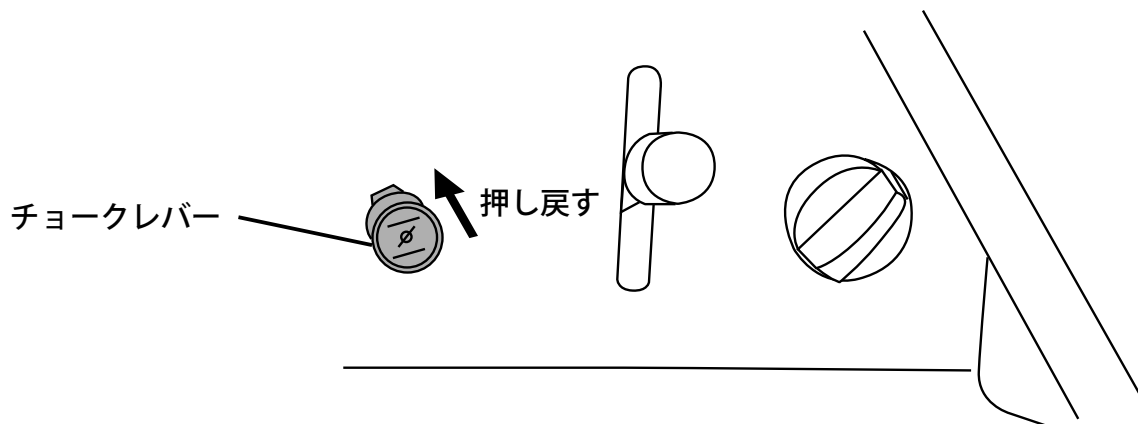
寒冷時のエンジン始動時に、エンジン回転数が低い状態（アイドリング状態）で暖機運転を行うと、以下の症状が発生することがあります。

- 黒煙排気
- 点火プラグのくすぶり（かぶり）
- エンジン回転が不安定
- バックファイヤ（アフターバーン）
- 意図せぬエンジン停止（エンスト）

このような症状を防ぐためには、エンジン回転調整レバーを「高」位置にし、エンジン回転を高速にしてください。

11. チョークレバーを引いてエンジンを始動した場合は、チョークレバーを戻してください。

エンジンの回転が安定したら、徐々に押し戻して暖機運転を行ってください。



## 7章 除雪作業のしかた

### ⚠ 危険

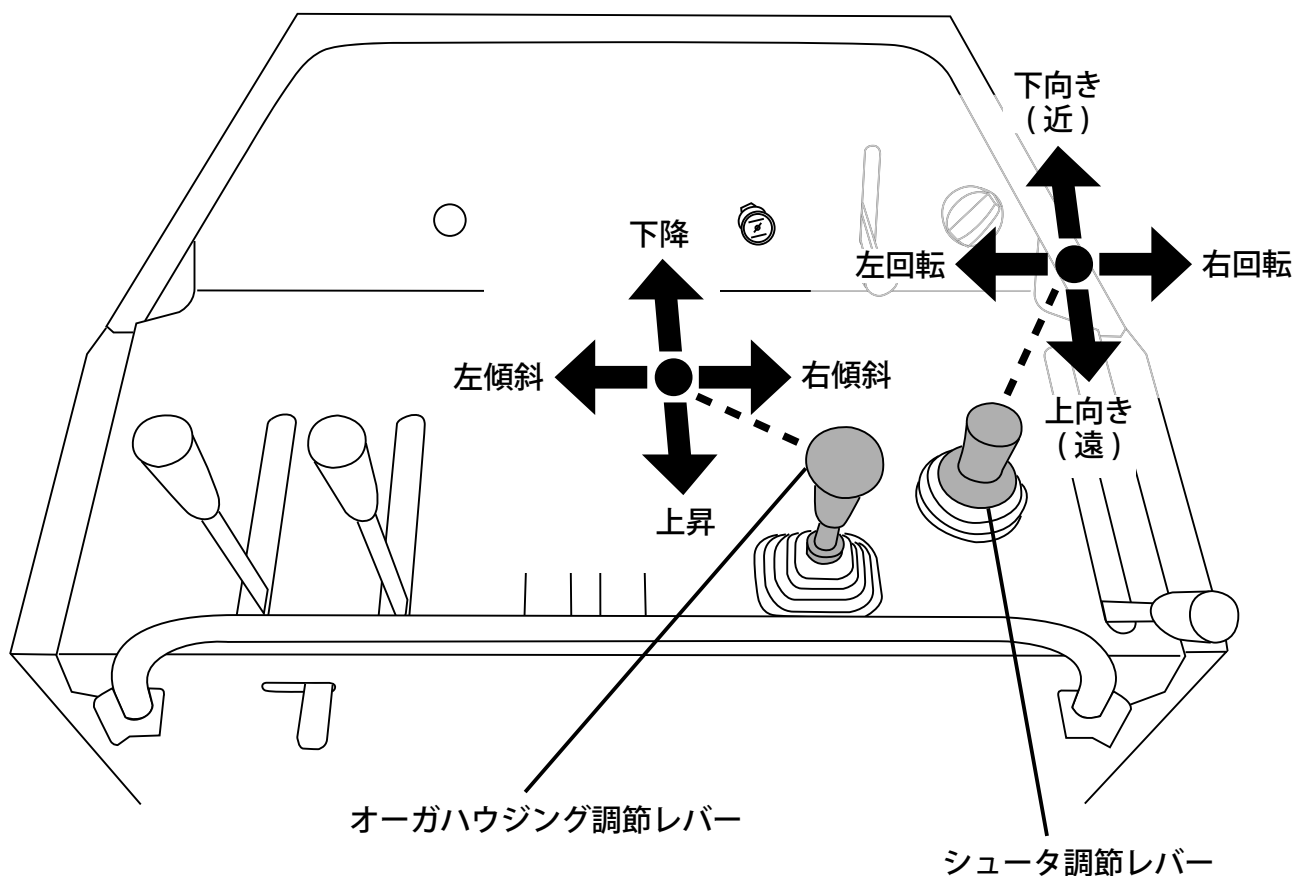
クラッチレバーを改造したり、固定して運転しないでください。  
本機が停止せず、ひかれ・挟まれなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

### ⚠ 警告

- ・ 傾斜地では、斜めに登ったり、斜面に対して平行に走行しないでください。  
横スベリや転倒のおそれがあります。
- ・ 傾斜角度18度以上の傾斜地で連続運転するとエンジン故障のおそれがあり危険  
ですので、急斜面での運転はしないでください。
- ・ 急な坂道での除雪作業はしないでください。  
転倒やスリップによる事故のおそれがあります。
- ・ 機械の回転部、可動部は、注意をおこたったり取扱いを誤ると大変危険です。  
除雪作業にあたっては、安全のため次の要領で行ってください。

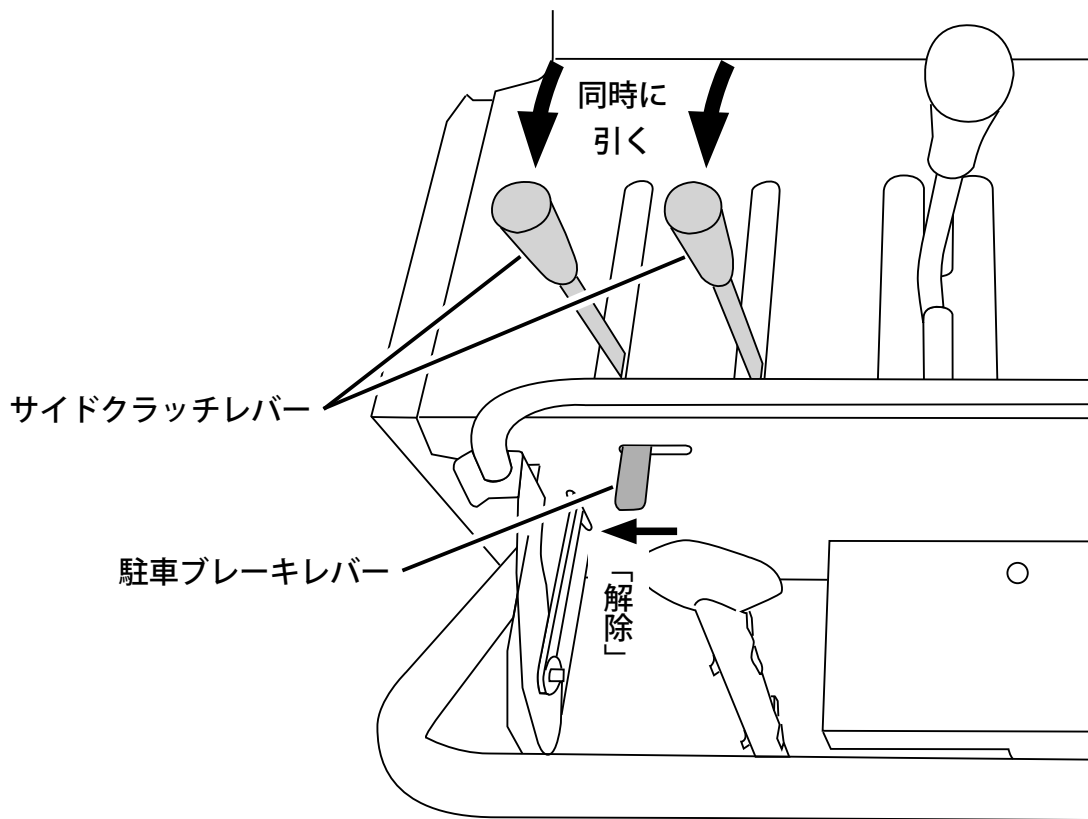
### 1. 発進の要領

- 1) エンジンを始動します。(P.35「6章 エンジンのかけかた」参照)
- 2) シュータ調節レバーとオーガハウジング調節レバーを操作し、投雪方向と除雪高さをそれぞれ決めます。



## 7章 除雪作業のしかた

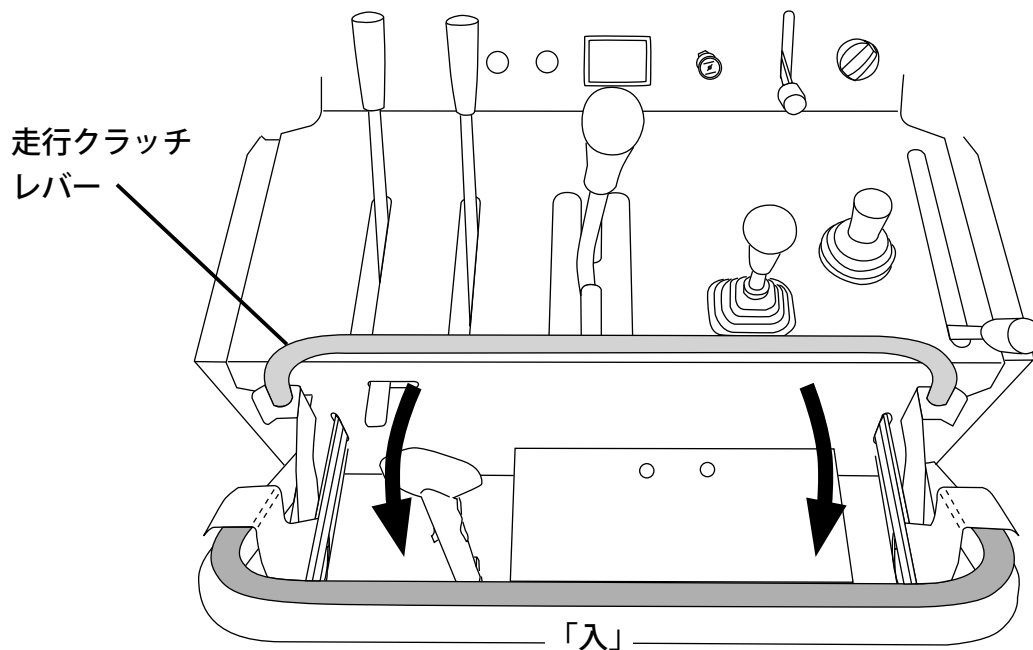
- 3) 駐車ブレーキレバーを「解除」位置にします。



### [参考]

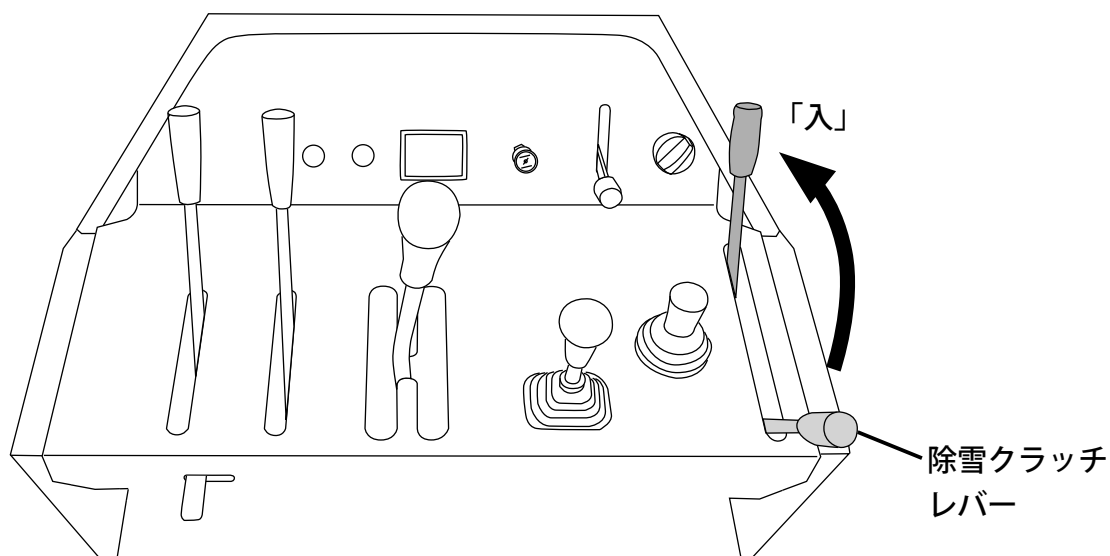
各クラッチレバーの「入」位置への操作は、エンジン回転調節レバーを「低」位置にして行ってください。

- 4) 走行クラッチレバーを「入」位置にします。

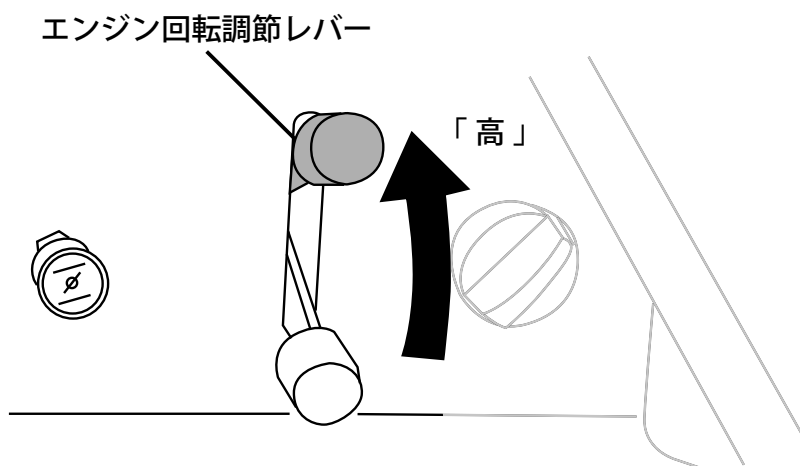


## 7章 除雪作業のしかた

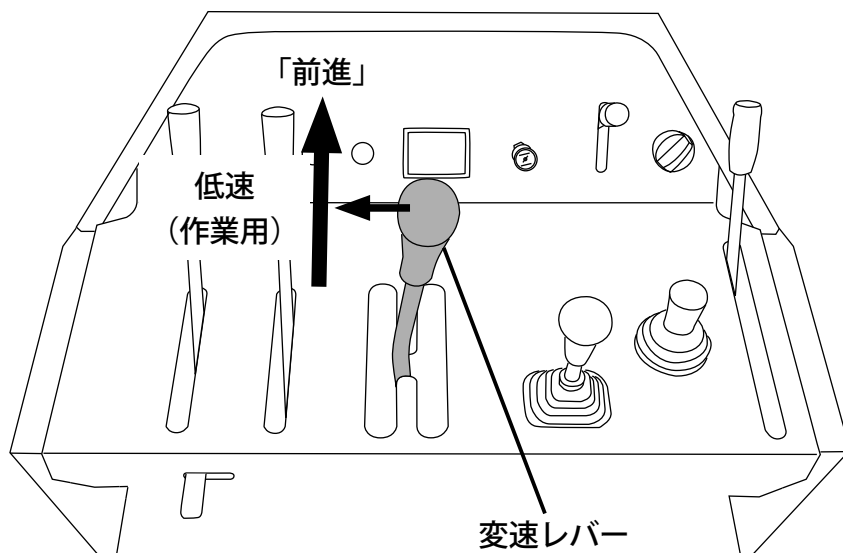
- 5) 除雪クラッチレバーを「入」位置にします。



- 6) エンジン回転調節レバーを「高」位置にします。



- 7) 変速レバーを「低速」側にし、雪質、積雪量にあわせてレバーの位置を選び、車速を決めます。



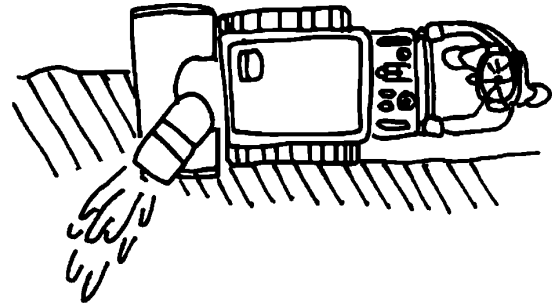
## 2. 除雪作業の要領

除雪作業は、エンジン回転を落とさずに行うことが重要です。そのためには、雪による過負荷をさけるため、変速レバーは「低速」側で行ってください。

速度を下げてもエンジン回転が低下する場合は、次の方法を参考にして除雪作業を行ってください。

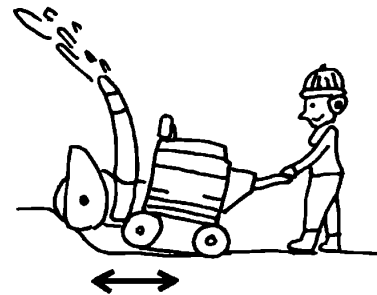
### 除雪幅を狭くする方法

深い雪や、固くなった雪の場合は、速度を下げても除雪してください。また、このようなときは、除雪部にかかる雪幅を狭くしてください。



### 前後進除雪の方法

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるようなときには、前・後進を繰り返して除雪してください。



### 断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下するときは、断続的に除雪を行ってください。

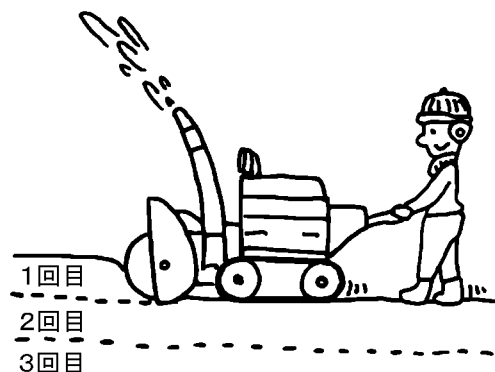
- 1) エンジン回転が回復するまで変速レバーを「中立」位置付近に戻します。
- 2) 除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら、変速レバーを操作し、前進します。
- 3) 再びエンジン回転が低下するときは、1)～2)を繰り返して行います。

除雪部の雪がなくなったら前進



### 段切除雪の方法

積雪量が多く、除雪高さよりも雪が深いときは、段階的に除雪してください。



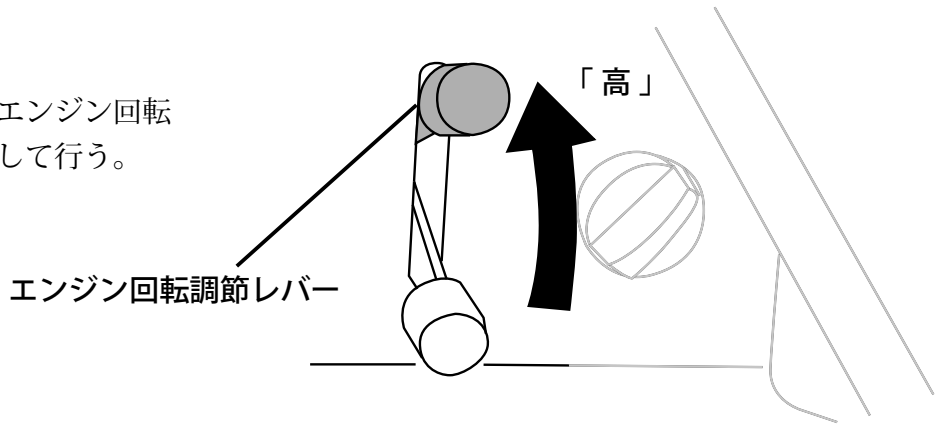
### 3. 雪づまり防止方法とつまった雪の除去

べた雪などを除雪するときは、除雪部の雪づまりがおこりやすくなります。  
以下の点に注意して除雪作業をすれば、雪づまりを最小限にすることができます。

#### べた雪を除雪する場合

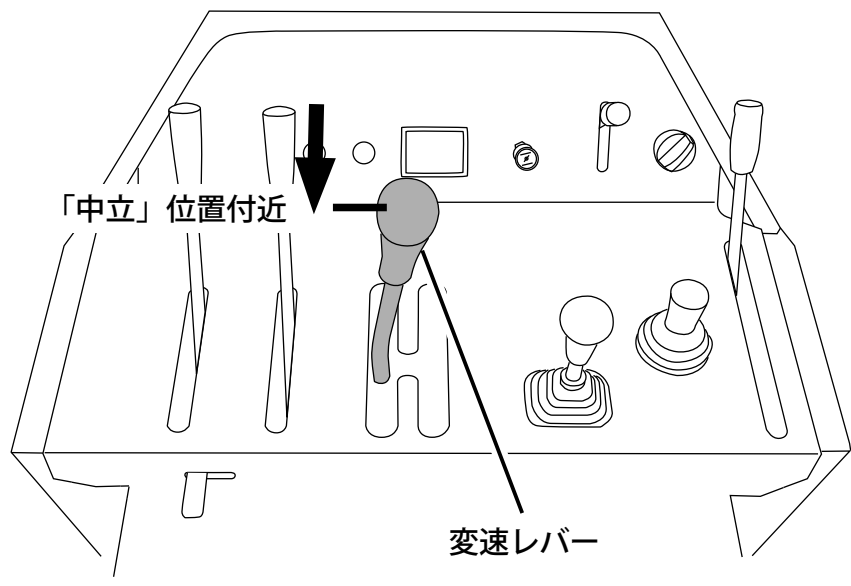
・ポイント1

除雪作業に入る場合は、エンジン回転調節レバーを「高」位置にして行う。



・ポイント2

負荷が大きくなりエンジン回転が低下したらすみやかに変速レバーを「中立」位置付近に戻し、エンジン回転が回復したら前進します。



・ポイント3

除雪作業を終えるときは、除雪部にたまっている雪をきれいに飛ばしてから、エンジンを停止します。



つまった雪の除去

**⚠ 危険**

投雪口につまった雪を除去するときは、エンジンを停止し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取り除いてください。

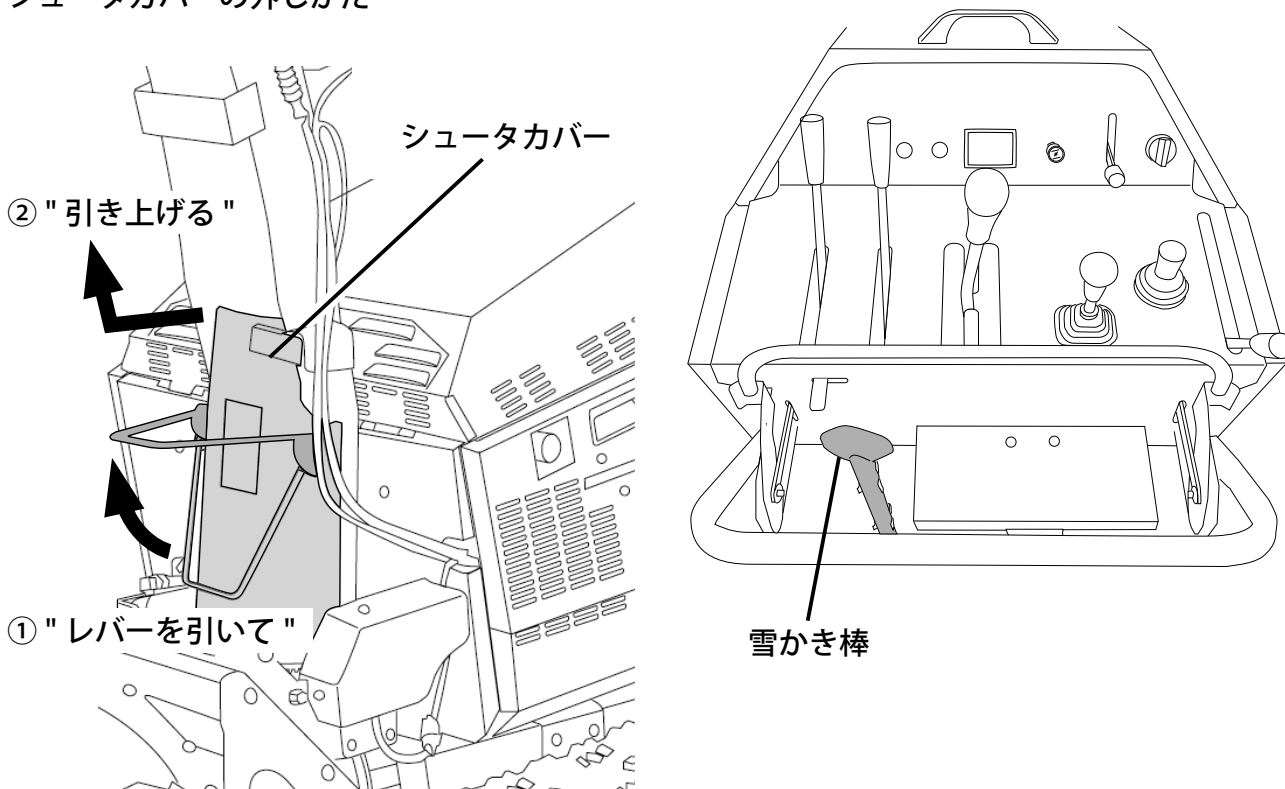
エンジンが回っているときは、絶対に手を入れないでください。機械に巻き込まれ重傷を負うおそれがあります。

- つまった雪の除去は、備え付けの雪かき棒で除去します。
- 雪かき棒は、使用后必ず元の位置に取り付けてください。

投雪口につまった雪の除去方法

- 1) エンジンを停止させ、オーガ、ブロワの回転が停止したことを確認してください。
- 2) シュータカバーを外します。
- 3) 雪かき棒を使ってつまった雪を除去してください。  
(雪かき棒は操作パネル下側に備え付けられています。)  
(除去作業が終わったら雪かき棒を元の位置に取り付け、シュータカバーを確実に取り付けてください。シュータカバーが確実に取り付けられていないと、シュータカバーランプ (P. 25 参照) が点灯し、エンジンが始動しないしくみになっています。)

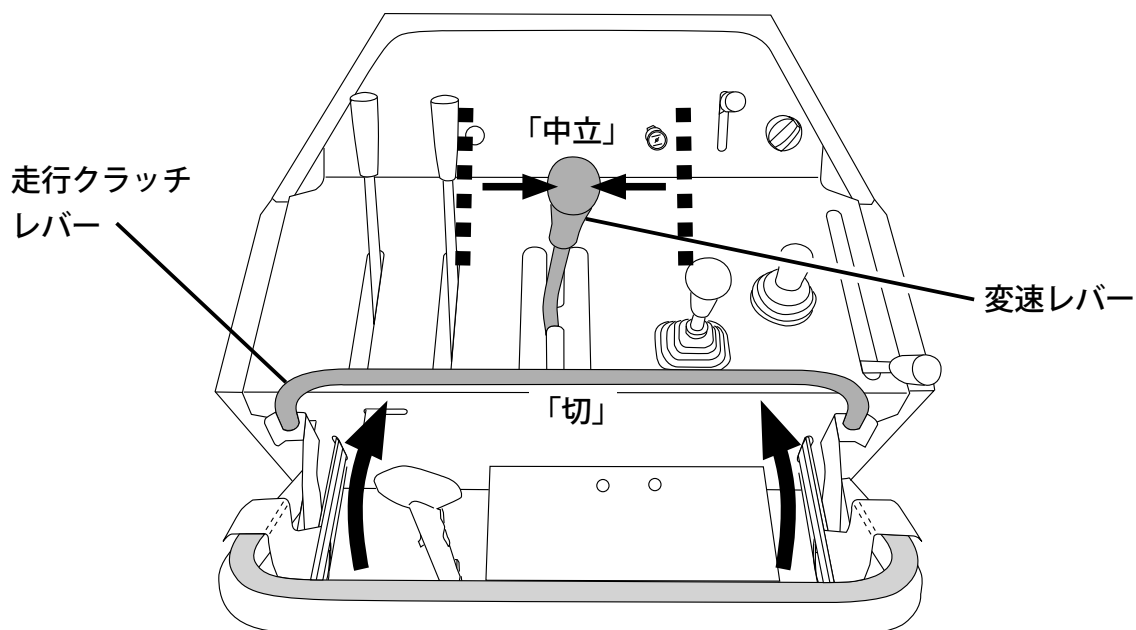
シュータカバーの外しかた



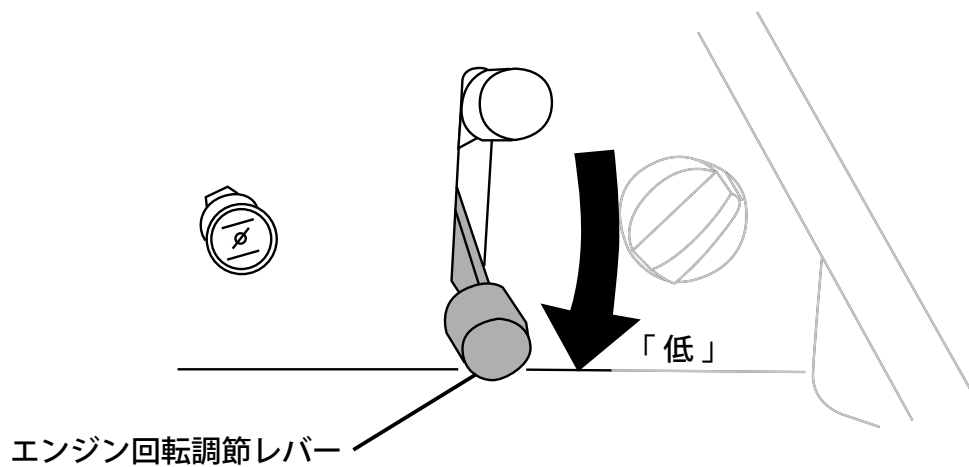
## 8章 除雪機の止めかた

### 1. 停車のしかた

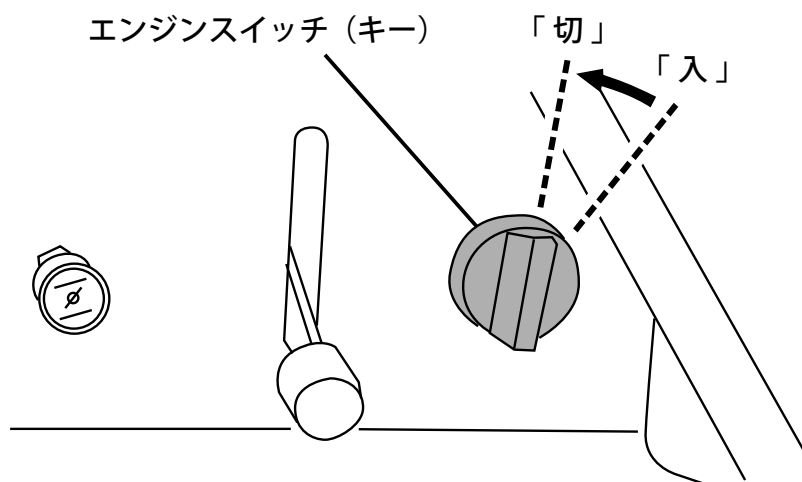
1) 変速レバーを「中立」位置にし、走行クラッチレバーを離し「切」位置にします。



2) エンジン回転調節レバーを「低」位置にします。

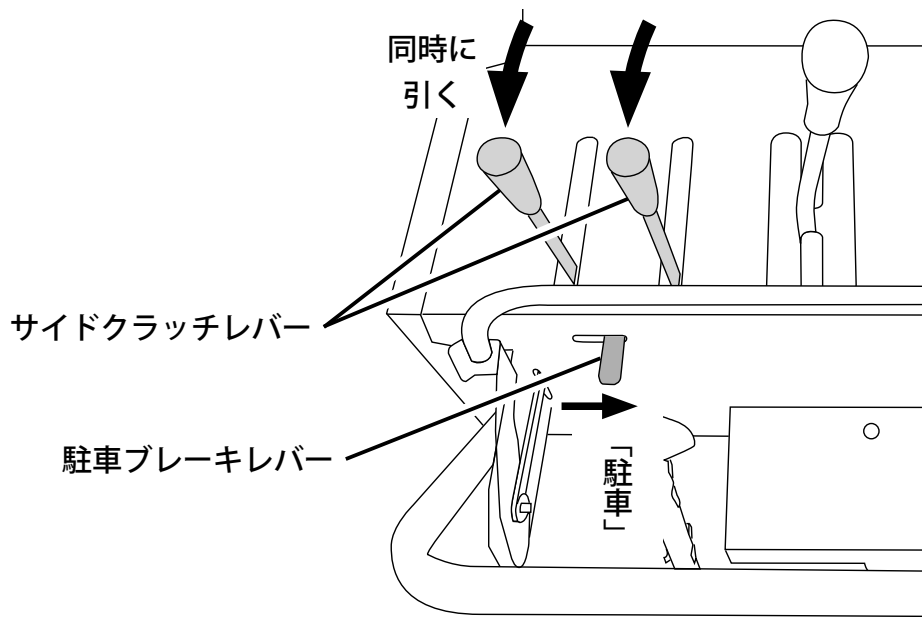


3) エンジンスイッチキーを「切」位置にします。



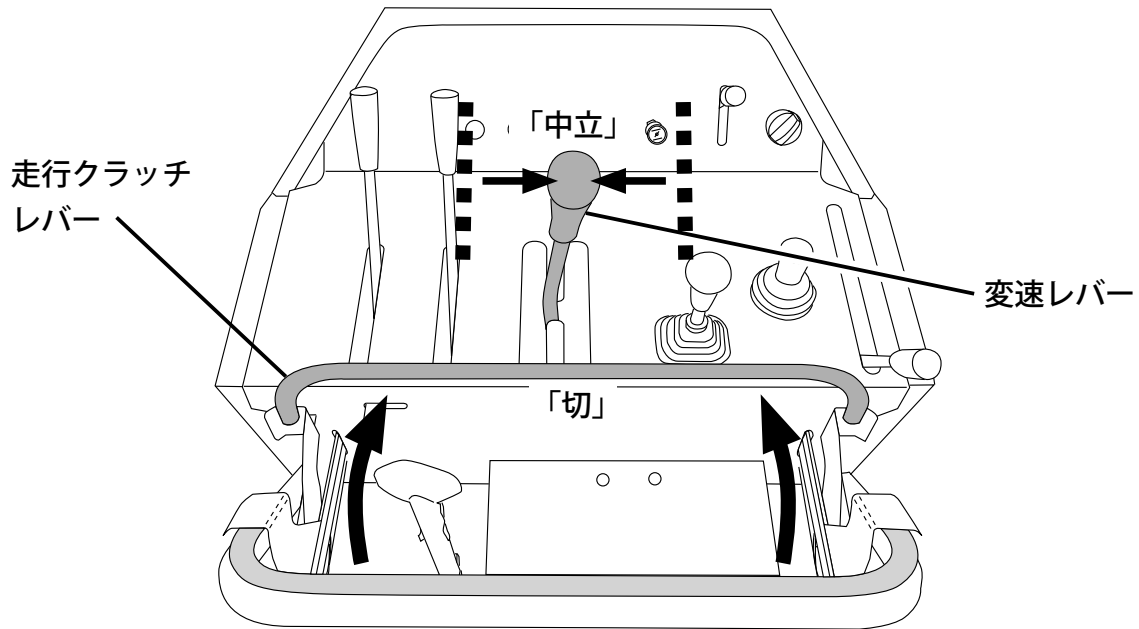
## 8章 除雪機の止めかた

4) 駐車ブレーキレバーを「駐車」位置にします。

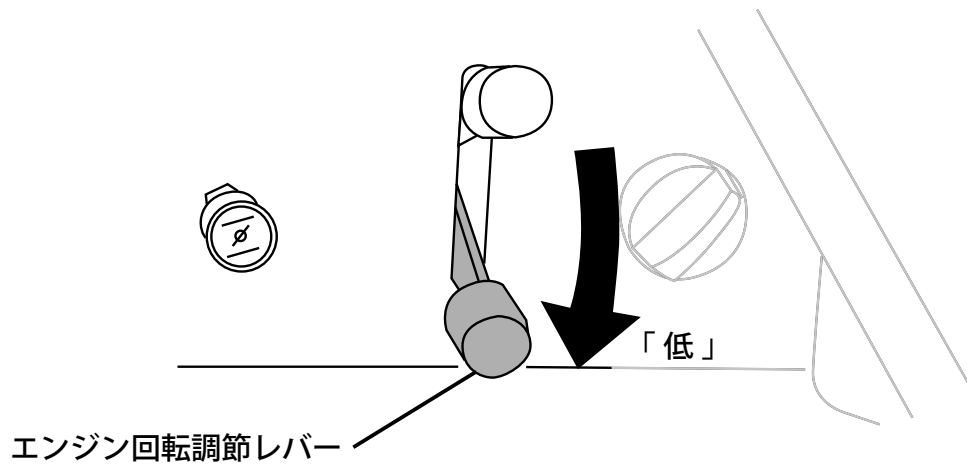


## 2. 駐車のかた

- 1) 平坦で安全な場所へ移動します。
- 2) 変速レバーを「中立」位置にし、走行クラッチレバーを離し「切」位置にします。

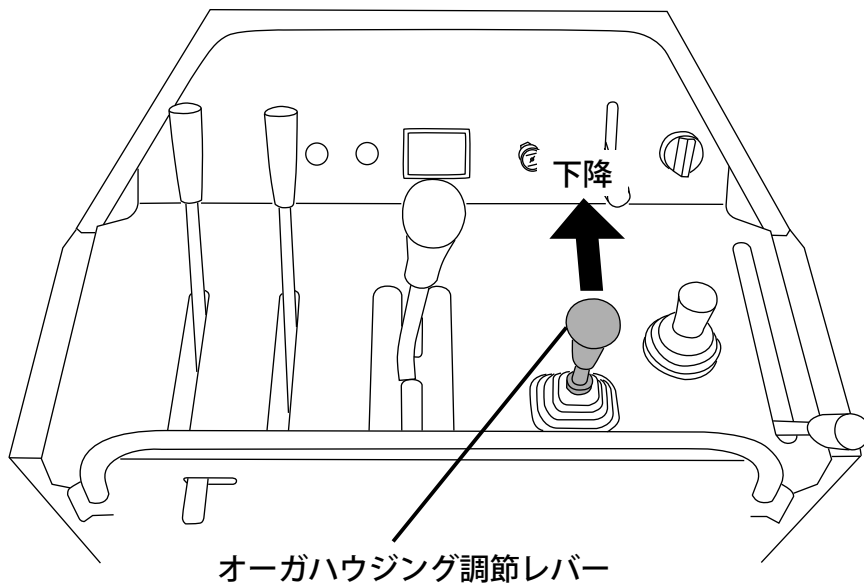


- 3) エンジン回転調節レバーを「低」位置にします。

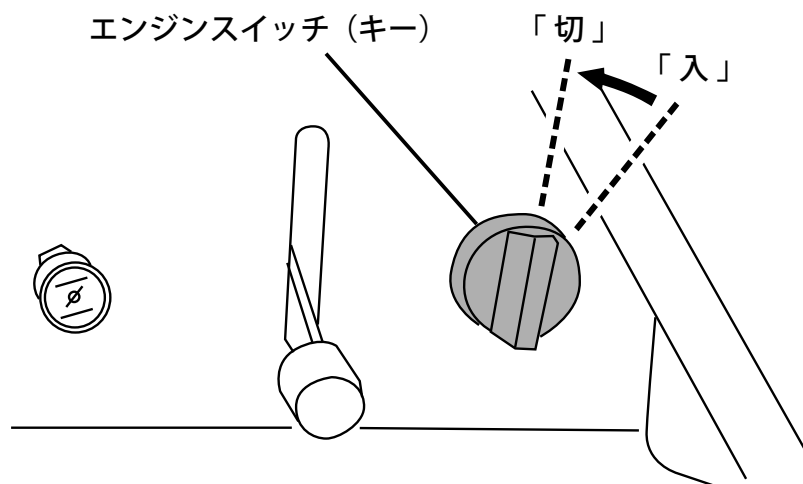


## 8章 除雪機の止めかた

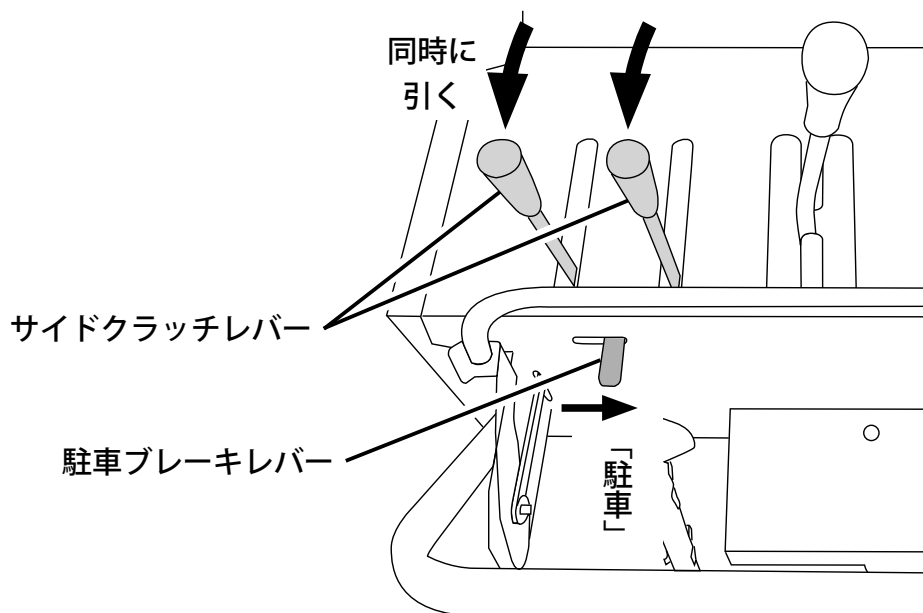
4) オーガハウジング調節レバーを操作して、除雪部を完全に路面へ接地させます。



5) エンジンスイッチキーを「切」位置にします。



6) 駐車ブレーキレバーを「駐車」位置にします。



## 9章 除雪機の運搬のしかた

### トラックでの運搬のしかた



- ・積み込み・積み降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- ・アユミ板は基準に合ったものを使用してください。守らないと転落事故の原因になります。
- ・本機の前後には人を立たせないようにしてください。機械が不意に動いたときに、思わぬ事故をまねくおそれがあります。
- ・トラックの荷台に積み込んだ機械は、オーガハウジングを荷台に接地させ、丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- ・輸送時は燃料もれ防止のため、燃料コックレバーを「閉」位置にしてください。守らないと、こぼれた燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。

#### アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

<アユミ板の基準>  
強度：機体の重量に十分耐えるもの  
幅：クローラー幅の1.2倍以上  
長さ：荷台の高さの4倍以上  
(積載時の傾斜が約14°以下)  
：すべり止めのあるもの  
：フックのあるもの

#### トラックの準備

- 1) トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- 2) トラックの変速は、「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキを掛けてください。
- 3) タイヤに車止めをしてください。
- 4) トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように確実に掛けてください。



- ・機械がアユミ板と荷台の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、最低速度で慎重に移動してください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- ・積み込み・積み降ろしを行うときは、必ずハンドルを持ち、オーガハウジングを浮かせた状態で行ってください。守らないと、機械のバランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。



### アユミ板の上ではクラッチレバーと、変速レバーの 高速・低速の切り換え操作厳禁。

トラックへの積み込み・積み降ろしは、アユミ板の上で進路変更をしないように進路を定めて低速で行ってください。変速レバーを「中立」位置にしたり、走行クラッチ、サイドクラッチの操作はしないでください。  
守らないと、転落などの事故をまねくおそれがあります。

### [重要]

積み込み・積み降ろしを行うとき、後進時非常停止下部レバーが地面と接触する場合がありますため、注意して積載してください。

### 除雪機の積み込みかた

- 1) オーガハウジング調節レバーを操作し、オーガハウジングを積み込み時に接触しない位置に浮かせてください。
- 2) 除雪機は、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように方向を定め、変速レバーを「前進」の「低速」にして慎重に積み込んでください。
- 3) 積み込み位置まできたら、P. 47「2. 駐車のかた」を参照し、駐車してください。  
燃料もれ防止のため、輸送時は燃料コックレバーを「閉」位置にしてください。
- 4) シャーシなどのしっかりした部分に十分強度のあるロープを掛けて、機械を確実に固定してください。

### 除雪機の降ろしかた

- 1) 機械を固定しているロープを外してください。
- 2) オーガハウジング調節レバーを操作し、オーガハウジングを積み降ろし時に接触しない位置に浮かせてください。
- 3) 除雪機は、変速レバーを「後進」の「低速」にして慎重に降ろしてください。

# 10章 定期点検

## 定期点検

始業点検項目（P. 34参照）と下記の点検項目に従って、定期点検を行ってください。  
機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズン毎に整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

定期点検一覧表

点検・調整箇所	規定量・サイズ	内容	点検・整備時期	ページ
エンジンオイル	4サイクルガソリンエンジン オイル SAE 5W-30 SE級以上 1.5リットル	交換	初回：1ヵ月または20時間 以後：3ヶ月毎または50時間毎	54
ミッションオイル	ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD級以上 2.8リットル	★交換	2年毎または300時間毎	60
エアークリーナー	-	清掃	3ヶ月毎または50時間毎	59
		交換	1年毎または200時間毎	
点火プラグ	BPR5ES (NGK)	点検・調整	3ヶ月毎または50時間毎	57
		交換	1年毎または200時間毎	
フューエルフィルター	-	点検	3ヶ月毎または50時間毎	58
		★交換	1年毎または200時間毎	
エンジンオイルフィルター	-	★交換	初回：3ヵ月または50時間 以後：1年毎または200時間毎	56
クローラ張り	-	調整	1年毎	62
オーガ	-	★点検・交換	必要に応じて	63
ソリ	-	調整・交換	必要に応じて	64
ブロワベルト	W800ベルト SB43	★摩耗状況点検 張り状況点検・調整	1年毎	-
走行ベルト	レッドSIIベルト SB31	★摩耗状況点検 張り状況点検・調整	1年毎	-
ポンプ駆動ベルト	レッドSIIベルト SB26	★摩耗状況点検 張り状況点検・調整	1年毎	-
ブロワブレーキ	-	★点検・調整（エンジン 回転数最高時で、除雪 クラッチレバー「入」→ 「切」の時、5秒以内に ブロワが停止のこと）	1年毎	-
各ワイヤー	-	★点検・調整	1年毎	-
走行クラッチレバーと 除雪クラッチレバーの連動	-	★必要時調整	1年毎	27
後進時非常停止上部レバー・ 後進時非常停止下部レバーの作動	-	★調整	1年毎または200時間毎	-
電気部品・配線コード	-	★点検	1年毎	-
電磁クラッチ	-	★点検	1年毎	-
油圧オイル	タービンオイル VG32 1リットル	★交換	2年毎または300時間毎	61

★の項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げいただいた販売店にお申し付けください。

### [重要]

定期点検を受けられてもブロワベルト、走行ベルト、ポンプ駆動ベルトは、お客様のご使用状況によりベルト寿命が異なります。シーズン中でも異常を感じたときは、販売店での整備を受けてください。



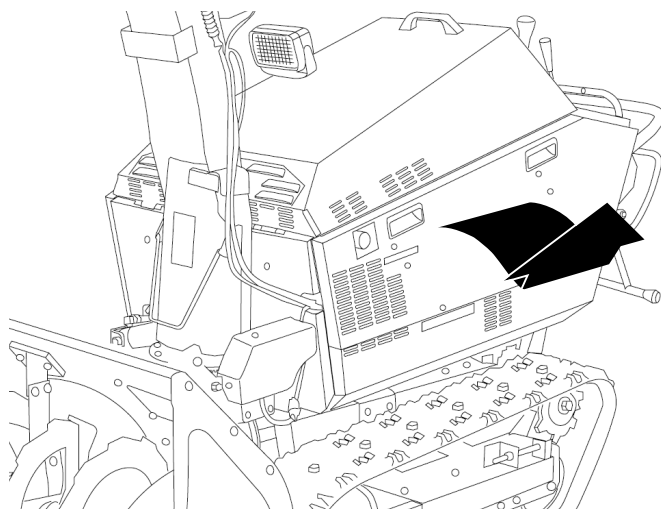
## 11章 点検・整備のしかた

### [参考]

オイルの種類・量、ベルトのサイズ、シャーボルトのサイズは、ボンネット裏に貼付けてあるメンテナンスマークにも記載されています。

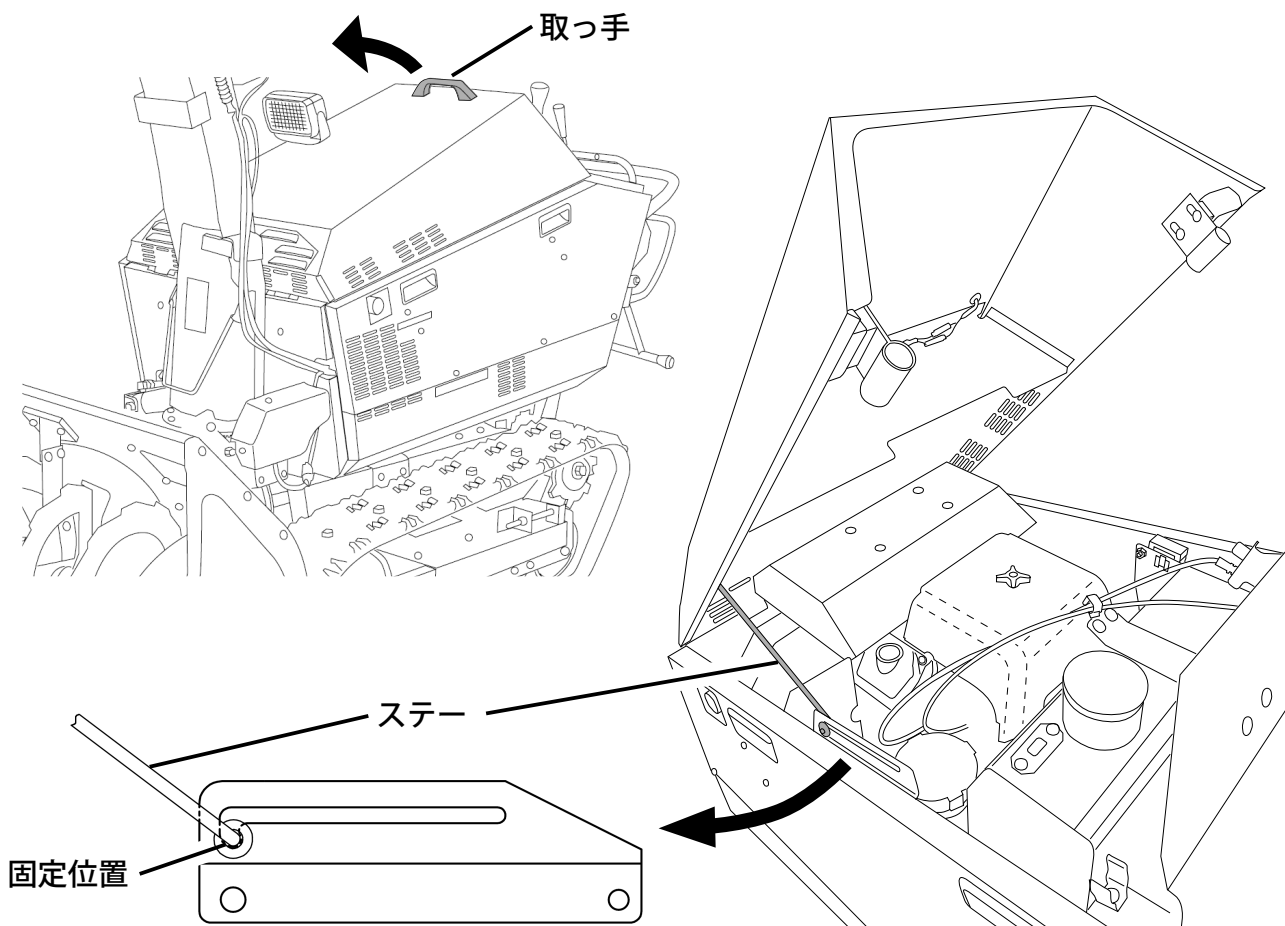
### サイドカバーの外しかたと取り付けかた

- 1) サイドカバーを手前に引きます。
- 2) カバーを上を引き上げるように外します。  
サイドカバーの取り付けは外す時と逆の手順で行います。



### ボンネットの開けかたと閉めかた

- 1) 取っ手を持ち、上方に最後まで開けると、開いた状態で固定されます。
- 2) 閉めるときはステーを固定位置から持ち上げて、ボンネットを支えながら閉めます。

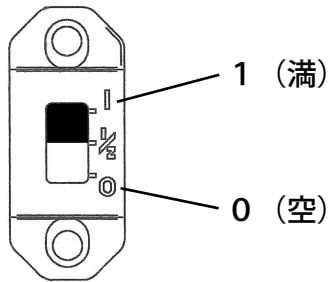


## 燃料

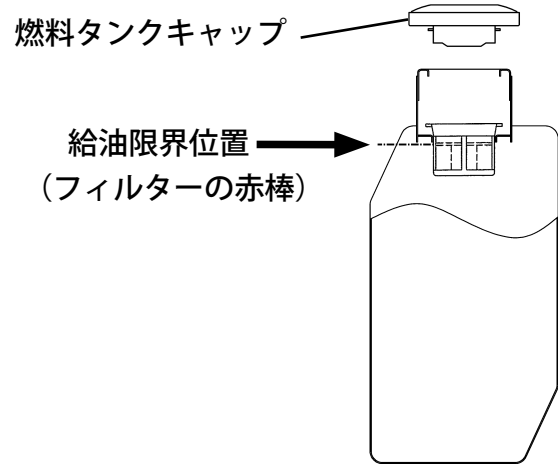
### 燃料の点検

燃料ゲージを見て残量を確認します。

少ないときは燃料タンクの給油限界位置まで補給してください。



燃料ゲージ



### 燃料の補給

- 1) ボンネットを開けます。(P. 52 参照)
- 2) 燃料タンクキャップを外して給油限界位置まで補給します。
- 3) 補給後、燃料タンクキャップを確実にしめてください。

#### [重要]

使用燃料・・・無鉛レギュラーガソリン

タンク容量・・・15リットル

## エンジンオイル

### [重要]

- ・交換後のエンジンオイル、ミッションオイル、冷却水等はゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買い上げになったお店にご相談の上処理してください。
- ・交換後のバッテリーも、法令に従い適正に処理してください。

※ 廃棄物処理法、水質汚濁防止法

### [重要]

点検するときは、除雪機を水平な場所に置いてください。傾いていると、正確な量が確認できません。

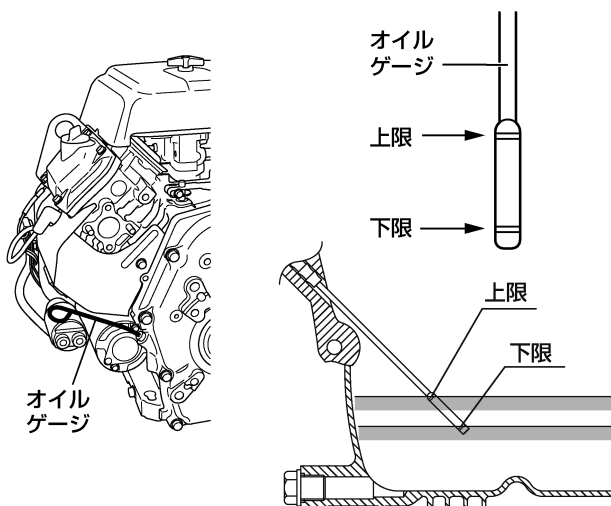
エンジンオイルが汚れていると、機械の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル量を守りましょう。

### エンジンオイルの点検

- 1) 暖機運転を1～2分ほど行い、エンジンを停止して2～3分置きます。
  - 2) エンジンを水平な状態にします。
  - 3) 右側のサイドカバーを開けます。(P. 52参照)
  - 4) エンジン部、オイルゲージを抜いてゲージ部をきれいに拭いてください。
  - 5) オイルゲージを差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検して下さい。オイルの量が少ないときは補給してください。
- ※エンジンオイルが著しく汚れている場合は、交換してください。

### エンジンオイルの補給

- 1) エンジンを水平な状態にします。
- 2) ボンネットと右側のサイドカバーを開けます。(P. 52参照)
- 3) 給油キャップを開け、新しいオイルをオイルゲージ上限まで補給してください。
- 4) 補給後、給油キャップを確実にしめます。



### ⚠ 注意

エンジンオイルを点検するときは、マフラーには触れないように注意してください。

マフラーが完全には冷え切っていないために、火傷をするおそれがあります。

エンジンオイルの交換

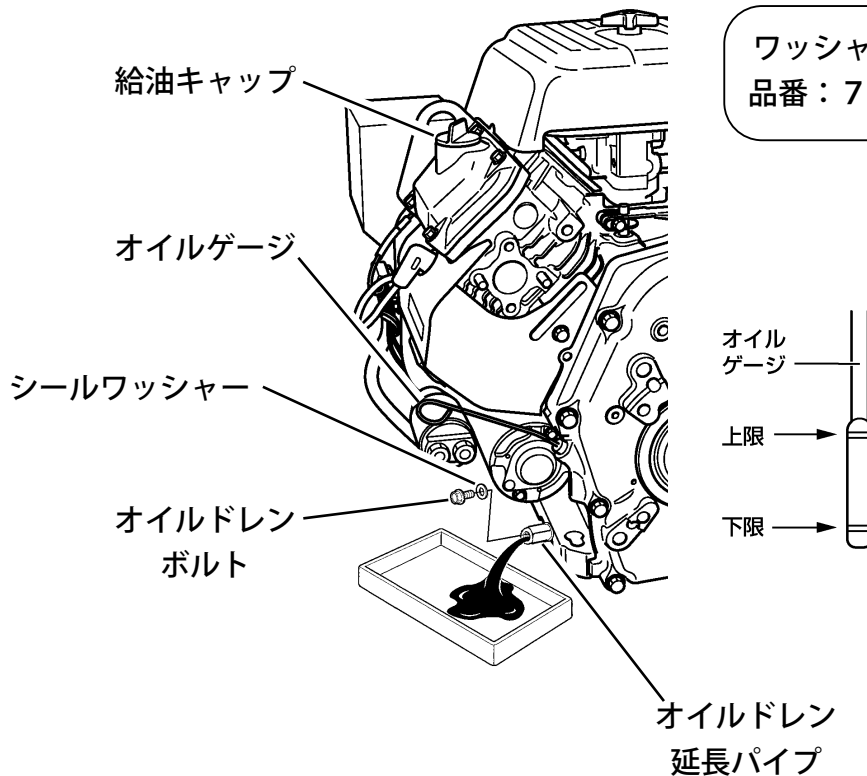
<交換時期>

初回 1ヶ月後  
または20時間運転後  
以後 3ヶ月毎  
または50時間運転毎。

<推奨オイル、容量>

推奨オイル・・・4サイクルガソリンエンジンオイル  
SAE 5W-30 SE級以上  
オイル容量・・・1.5リットル  
(ゲージの上限と下限の間にあること)

- 1) ボンネットと、右側のサイドカバーを開けます。(P.52参照)
- 2) 給油キャップを外します。
- 3) オイルドレン延長パイプを工具でおさえ、オイルドレンボルトを外してオイルを抜きます。
- 4) オイルが抜けたら、オイルドレンボルトを確実に締め付けます。  
(シールワッシャーは必要に応じて交換してください)
- 5) 新しいオイルをオイルゲージ上限まで給油口より給油します。
- 6) 給油後、給油キャップを確実に締め付けます。



ワッシャー, シール1  
品番: 7D3-17067-00

## エンジンオイルフィルター

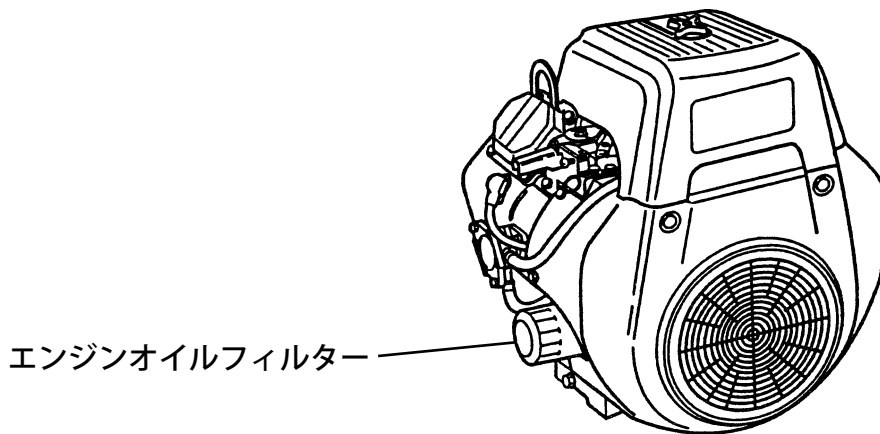
### <交換時期>

初回 50時間運転後または  
3ヶ月後のいずれか早い方  
以後 200時間運転毎または  
1年毎のいずれか早い方

オイルクリーナー ASSY  
品番：7D3-13440-00

### <交換のしかた>

- 1) 本機左側のサイドカバーを開けます。(P.52参照)
- 2) エンジンオイルを抜き取ってください。(P.55参照)
- 3) エンジンオイルフィルターをフィルターレンチで左側に回して外します。(反時計方向)
- 4) 新しいエンジンオイルフィルターのOリングにオイルを薄くぬり、シール面のOリングが接触してからフィルターレンチで3/4回転締め付けてください。
- 5) エンジンオイルを給油してください。(P.54参照)



## 点火プラグ

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適當な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

### <点検・調整時期>

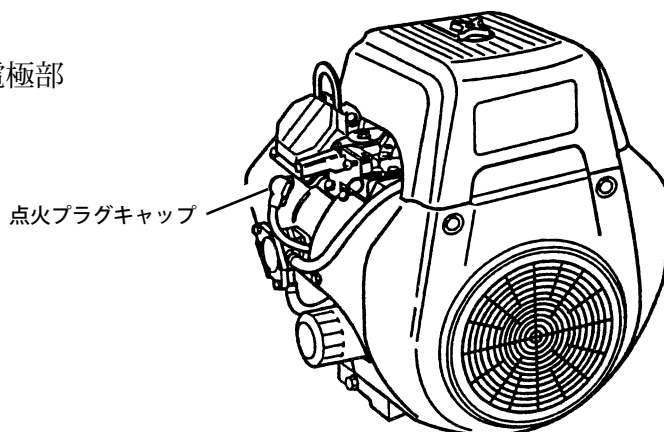
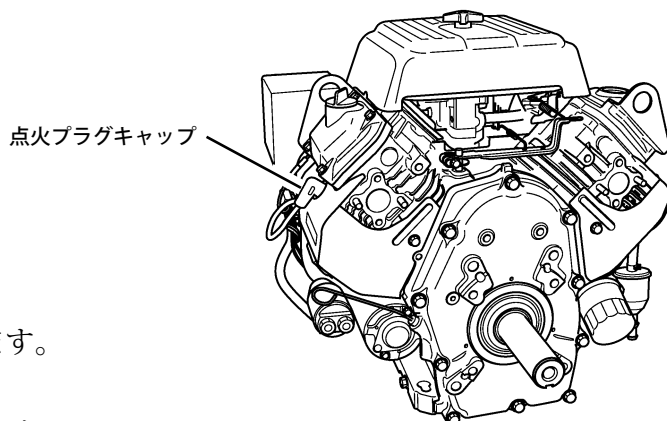
3ヶ月毎または50時間運転毎。

### <交換時期>

1年毎または200時間運転毎。

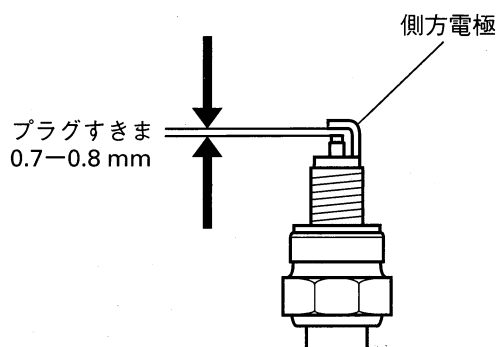
### 点火プラグの清掃

- 1) ボンネットと左右のサイドカバーを開けます。  
(P. 52参照)
- 2) 点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取り外します。
- 3) 汚れている場合はワイヤブラシ等で側方電極部を清掃してください。  
※ワイヤブラシは別売りです。



### 点火プラグの点検・調整

- 1) プラグすきまを点検し、側方電極を曲げてプラグすきまを0.7~0.8mmに調整します。
- 2) 取り付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締め付け、プラグキャップを確実に取り付けます。



#### [重要]

指定プラグ・・・品番 7D3-1119C-00

品名 プラグ,スパーク (NGK BPR5ES)

- ・故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず軽く指でねじ込み次にプラグレンチハンドルで確実に締め付けてください。
- ・点検調整後はプラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

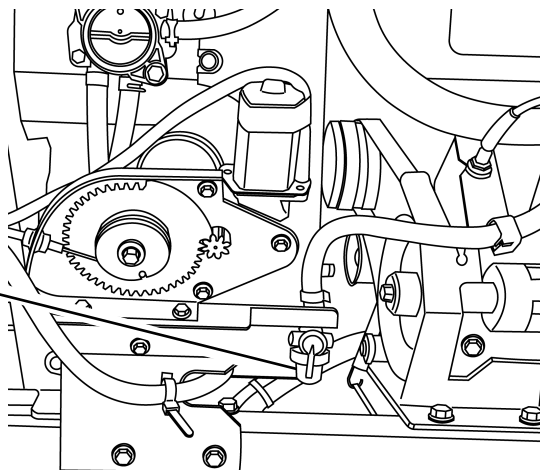
## フューエルストレーナ

フューエルストレーナの中に水やゴミがたまると、出力不足や始動不良をおこします。

### フューエルストレーナの点検

- 1) 左側のサイドカバーを開けます。(P.52参照)
- 2) フューエルストレーナを点検し、中に水や沈殿物がある場合は清掃してください。

フューエルストレーナ



<左側サイドカバー内部>

## フューエルフィルター

フューエルフィルターが目づまりすると、出力不足や始動不良をおこします。  
定期的に点検してください。

<点検時期>

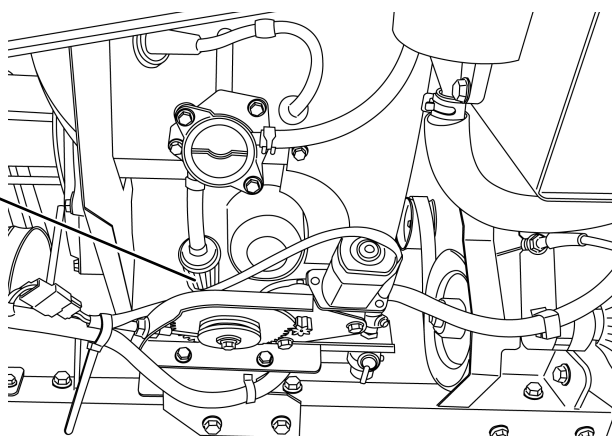
3ヶ月毎または50時間運転毎。

フューエルフィルター ASSY  
品番：7D3-24502-00

### フューエルフィルターの点検

- 1) 左側のサイドカバーを開けます。(P.52参照)
- 2) フューエルフィルターを点検し、目づまりがある場合は交換してください。

フューエルフィルター



<左側サイドカバー内部>

## エアークリーナー

エアークリーナーが目づまりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃、交換（ろ過部）をしましょう。

### ⚠ 注意

エアークリーナーの清掃は作業前に行ってください。運転中、および運転直後は清掃をしないでください。マフラーなどが高温になっているため、火傷をするおそれがあります。

#### <清掃時期>

3ヶ月毎または50時間運転毎

ほこりの多い場所で使用した場合は、1日1回または10時間運転毎

#### <交換時期>

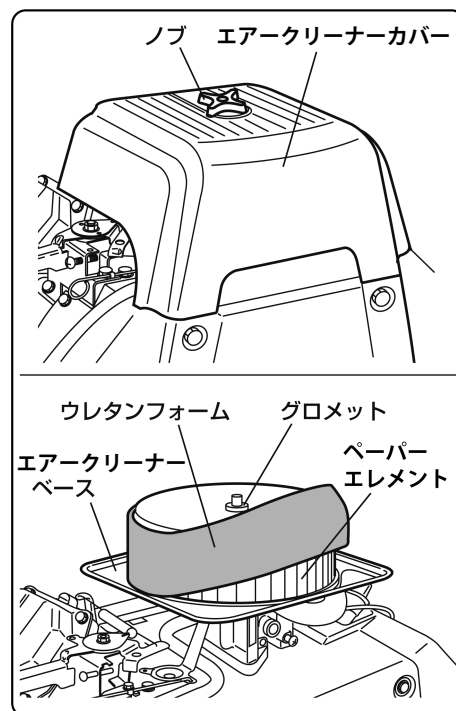
年1回または200時間運転毎

エレメント, 1

品番: 7D3-14451-00

### エアークリーナーの清掃

- 1) ボンネットを開けます。(P. 52 参照)
- 2) ノブを外し、エアークリーナーカバーとエレメント（ウレタンフォーム付）を取り外します。
- 3) ウレタンフォームを清掃します。
  - a) 洗油（白灯油）で洗浄後、白灯油3：エンジンオイル1の混合油に浸し、固く絞ります。
  - b) ペーパーエレメントに取り付けます。
- 4) ペーパーエレメントは、軽くたたか、エレメントの内側から圧縮空気を吹きつけてホコリを落とします。
  - a) ペーパーエレメントは200時間運転毎、または、シーズン毎のいずれか早い時期に交換してください。（汚れが著しいときはすぐに交換してください）
- 5) 清掃後、ペーパーエレメントを正しくエアークリーナーベースに置き、ウレタンフォーム、グローメットが正しく装着されているか確認して、カバーを置き、ナットで確実に取り付けます。



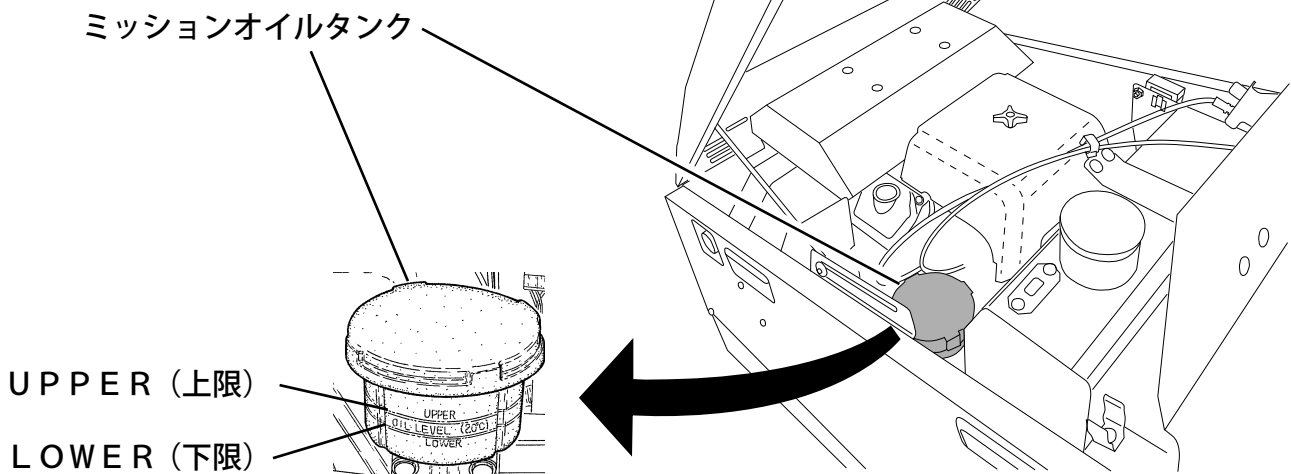


## ミッションオイルの点検・補給

ミッションオイルの点検は、エンジンが冷えているときに行ってください。

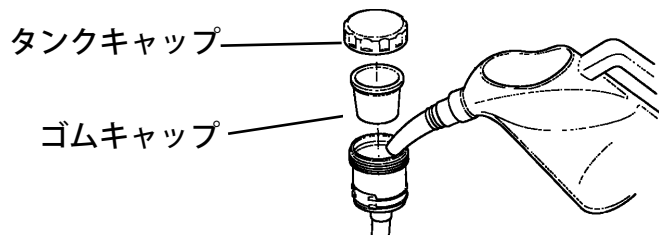
### ミッションオイルの点検

- 1) ボンネットと左側のサイドカバーを開けます。  
(P. 52参照)
- 2) ミッションオイルの液面がオイルタンクの  
UPPER (上限) と LOWER (下限)  
の間にあるか確認します。



### ミッションオイルの補給

- 1) 補給は、ボンネットと左側のサイドカバーを開けて行います。(P. 52参照)
- 2) タンクキャップと内側のゴムキャップを外し、新しいミッションオイルを  
UPPER (上限) まで補給します。
- 3) 補給後、確実にゴムキャップと  
タンクキャップを取り付けます。



#### [重要]

指定オイル・・・ディーゼルエンジンオイル SAE 10W-30 CD級以上  
2.8リットル (タンクの上限と下限の間にあること)

#### [重要]

・補給時、タンクの中にゴミなどの異物が入らないように、十分注意してください。異物が混入すると、ミッションが故障する原因になります

## 油圧オイル

### [重要]

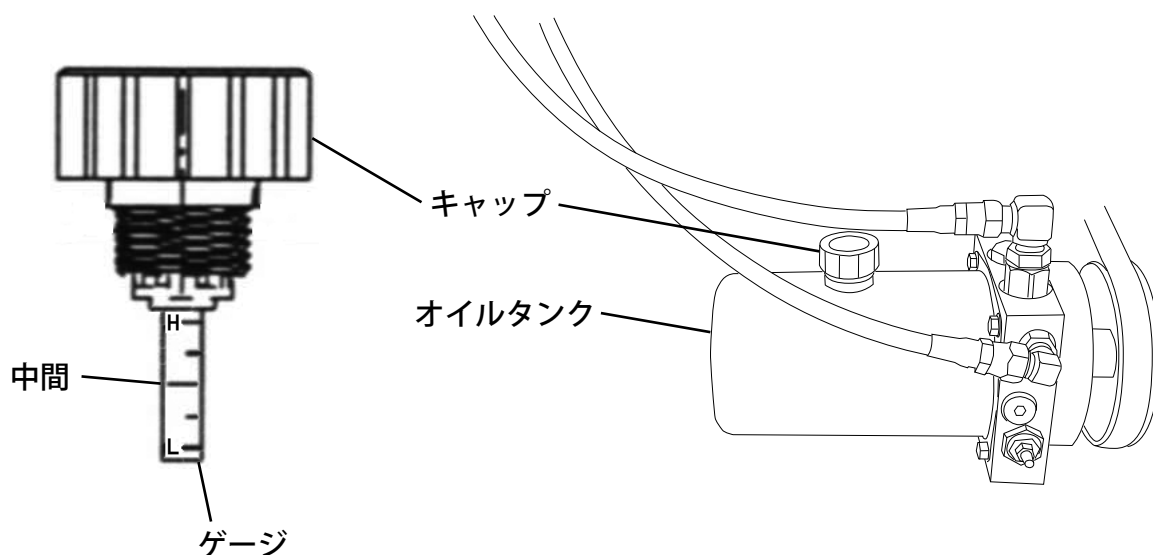
点検するときは、除雪機を水平な場所に置いてください。傾いていると、正確な量が確認できません。

### 油圧オイルの点検

- 1) オイルタンクが水平になる場所で、ソリを接地させます。
- 2) 右側のサイドカバーを開けます。(P. 52 参照)
- 3) オイルタンクのキャップを外して、ゲージのオイルを拭き取ってから、キャップをねじ込んで、オイルの液面がゲージの中間にあるか点検してください。

少ないときは新しいオイルを補給してください。

※油圧オイルが著しく汚れている場合は、交換してください。



### 油圧オイルの補給

- 1) 右側のサイドカバーを開けます。(P. 52 参照)
- 2) オイルタンクのキャップを外し、新しい油圧オイルをゲージの中間まで補給します。
- 3) 補給後、確実にキャップをしめます。

### [重要]

推奨オイル・・・タービンオイル VG32

1リットル (ゲージの中間とL (下限) の間にあること)

### 油圧オイルの交換

<交換時期>

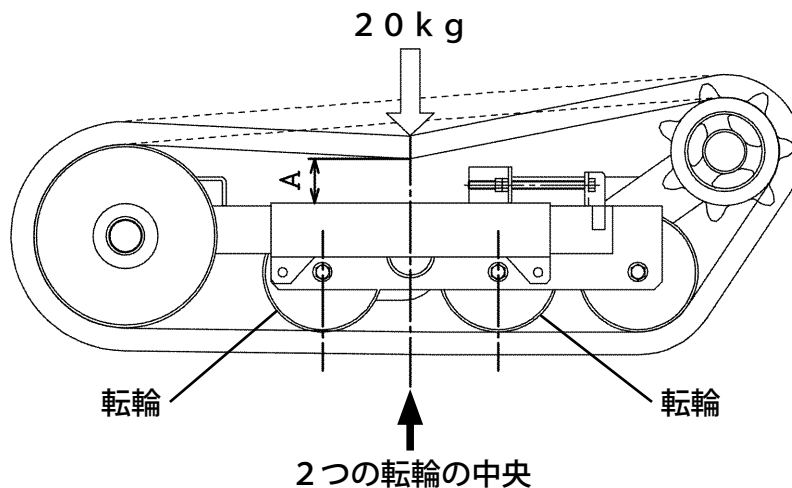
2年毎、除雪時期のはじめ

または300時間運転毎。

## クローラ

### クローラの点検

- 1) クローラに損傷がないか点検します。
- 2) クローラの下図の位置を20kgで押したとき、Aの寸法が65～75mmになっているか点検します。



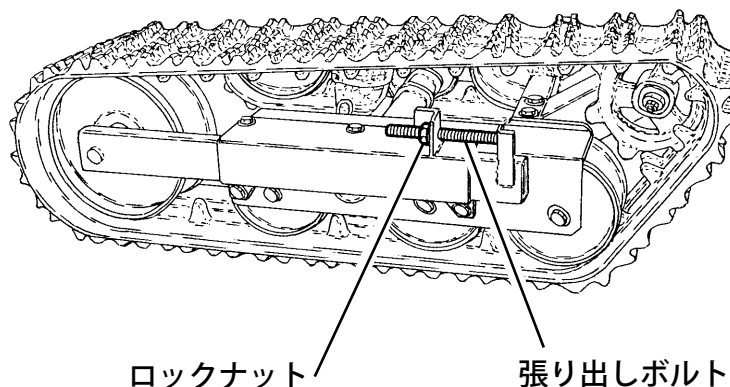
#### <調整時期>

年1回 除雪時期のはじめ

### クローラ張りの調整

クローラの張りが正常でないと、クローラが外れたり、寿命を著しく縮める原因になります。張り具合はきちんと調整しましょう。

- 1) 張り出しボルトのロックナットをゆるめ、調整してください。
- 2) 調整後、確実にロックナットを締め付けてください。
- 3) 張り調整は、左右同じになるように調整してください。



#### [重要]

クローラの張り出し寸法が正常でないと、クローラが外れたり、寿命を著しく縮める原因になります。

## 除雪部

### 除雪部の点検

オーガ、ブロワ、オーガハウジング、シュータ、に損傷がないか、またシャーボルトにゆるみ、切れがないか点検します。シャーボルトがゆるんでいる場合は、増し締めしてください。切れている場合は、交換してください。

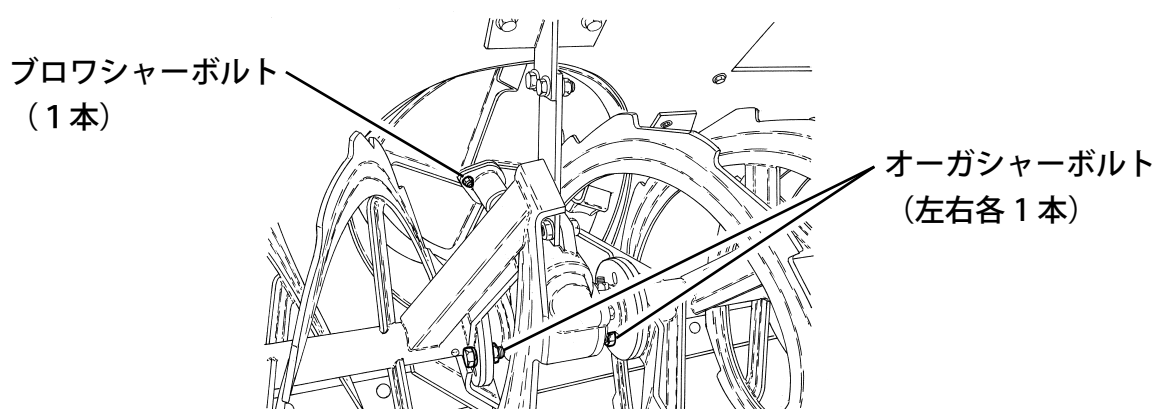
※シャーボルトは、異物の噛み込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機を保護するために切れるしくみになっています。

### シャーボルトの交換



シャーボルトの交換は、必ずエンジンが停止していることを確認してから行ってください。

- 1) 本機を水平な場所に止めてください。
- 2) 走行クラッチレバーから手を離し、除雪クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認します。(P. 28 参照)
- 3) エンジンスイッチを「切」位置にし、エンジンを停止させます。(P. 24 参照)
- 4) エンジンが停止し、オーガ、ブロワの回転が停止していることを確認します。
- 5) オーガ、ブロワの異物(石、棒、ロープなど)を取り除きます。
- 6) 切れたシャーボルトを取り除き、新しいシャーボルト・ナットに交換し、確実に締め付けてください。



※シャーボルトのサイズは、ボンネット裏のメンテナンスマークにも記載されています。

**[重要]**

シャーボルトは、必ず純正のものをご使用ください。純正以外のものを使用すると、機械が破損するおそれがあります。

品番	品名
ブロワ：90001-B10-000	シャーボルト 8×25 (コガタ (10セット入り))
オーガ：90002-B18-000	シャーボルト 10×30 (10セット入り)

## ソリ

### ソリの点検

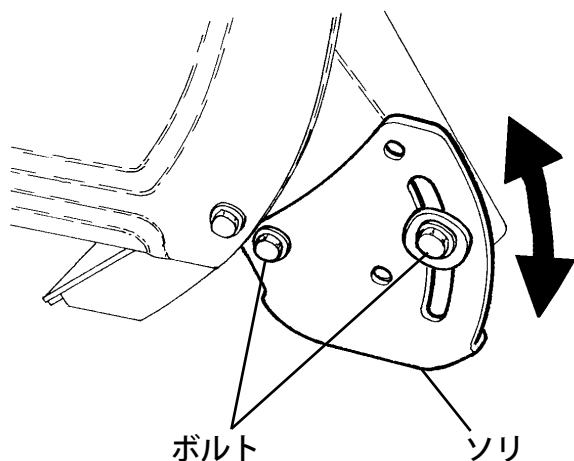
ソリがへっていないか点検します。へっている場合は、ソリの調整または交換が必要です。

### ソリの調整・交換のしかた

- 1) 除雪部を上げてソリを浮かせます。
- 2) ソリを固定しているボルト2ヶ所をゆるめ、任意の高さに調整した後ボルト2ヶ所を確実に締め付けます。

※ソリは左右同じ高さに調節してください。

ソリの交換は、固定している2ヶ所のボルトを外して行ないます。



### [参考]

ソリがへると、オーガが地面等に当たり、シャーボルトが切れやすくなります。ソリを調節してオーガが地面に当たらないようにしてください。

## ヒューズ

### <点検時期>

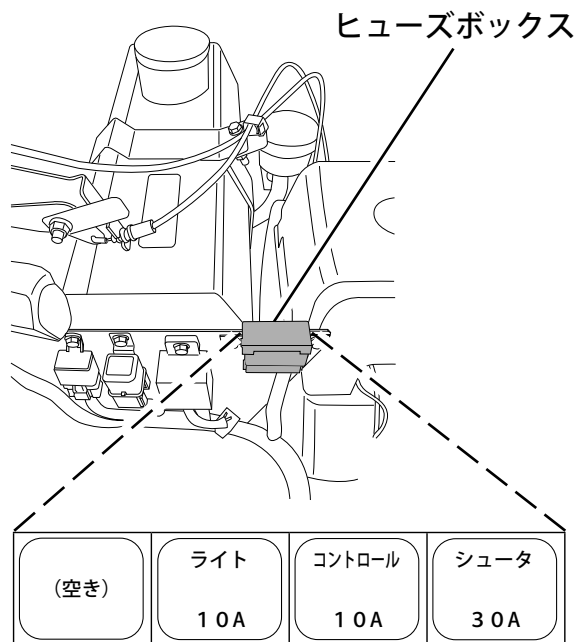
シュータが動かなかったり、作業灯が点灯しないなどの電気系統に異常があるときに点検してください。

ヒューズの点検・交換

ボンネットを開けて（P. 52 参照）、ヒューズボックス内のヒューズが切れていないか点検します。切れている場合は、指定のヒューズに交換してください。

ヒューズは、つまんで引くと抜けます。また、交換した場合は、確実にヒューズを差し込んでください。

- ・ブレードヒューズ 10A  
品番：91811-110
- ・ブレードヒューズ 30A  
品番：91811-130



<ヒューズボックス内部位置>



ヒューズが切れた時は、その原因を調べてから同容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。守らないと、火災につながるおそれがあります。

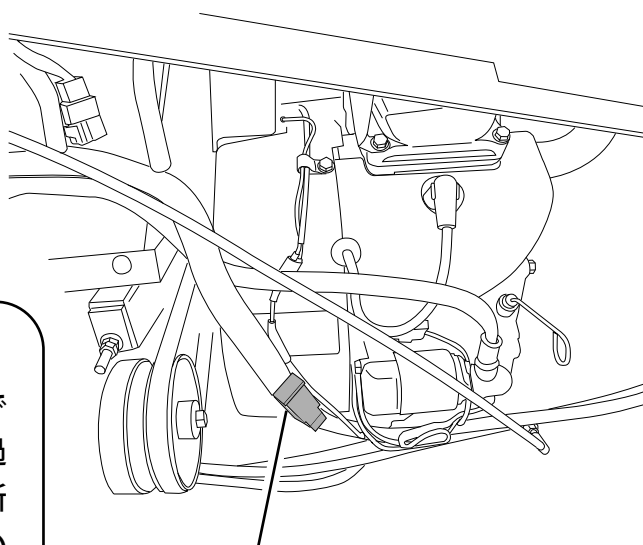
スローブローヒューズの点検

右側のサイドカバーを開けて（P. 52 参照）、スローブローヒューズが切れていないか点検します。切れている場合は、指定のヒューズに交換が必要です。交換作業には、適切な工具と整備技術を必要とします。お買い求めの販売店にご相談ください。

- スローブローヒューズ 40A  
品番：91811-340

[重要]

スローブローヒューズは、ヒューズの一つで万一配線回路（常時通電している回路）へ過大な電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。溶断した場合はお買い上げいただいた販売店で点検を受けてください。



スローブローヒューズ

## バッテリー

### ⚠ 危険

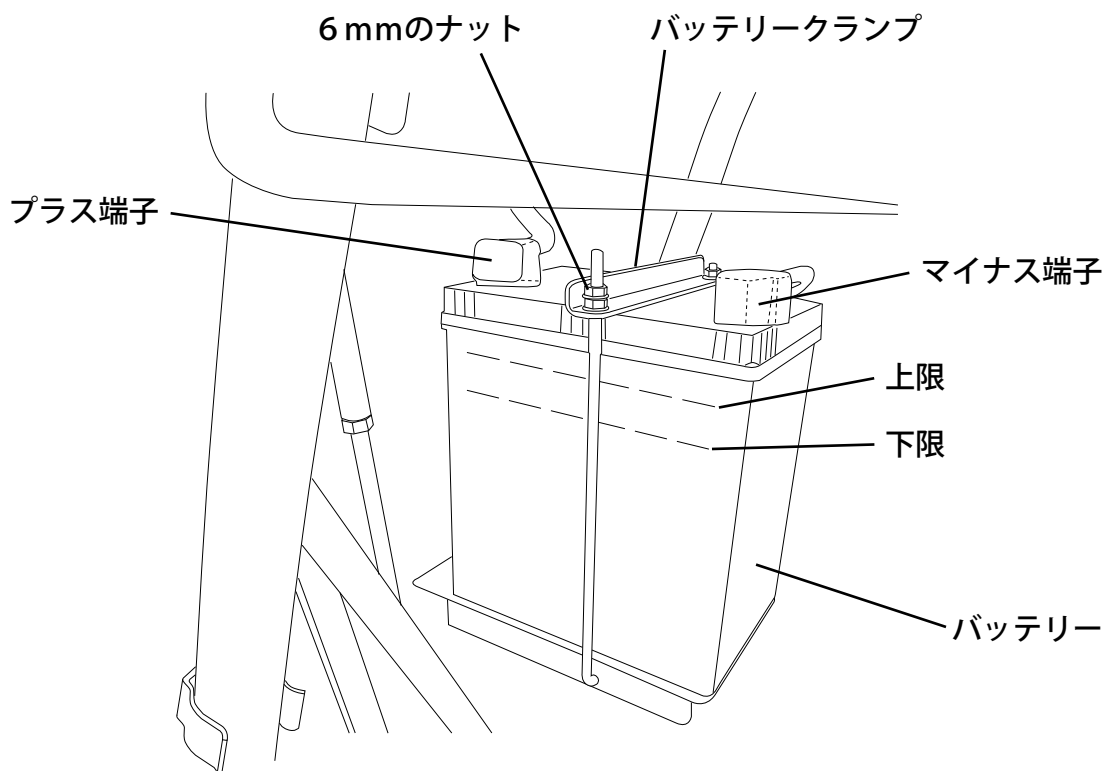
- ・バッテリーの交換時には、必ず防護メガネとゴム手袋を着用してください。

### バッテリーの点検

- 1) バッテリーが水平な状態になるようにします。
- 2) バッテリーの液面が各槽とも上限と下限の間にあるか確認します。  
不足している場合はバッテリー補充液（蒸留水）を補給してください。
- 3) 端子部にゆるみ、腐食がないか確認します。ゆるんでいるときはしめてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリーを本機から取り外し、ぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤーブラシかサンドペーパーでみがいてください。

### ⚠ 警告

- ・バッテリーの点検時、液槽キャップを開けたときは、火気厳禁です。
- ・バッテリー液を身体や衣服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- ・バッテリー端子を取り外すときは、マイナス側を先に外します。取り付けるときは、プラス側を先に取り付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりします。



### バッテリーの取り付け、取り外し

#### ●取り外し

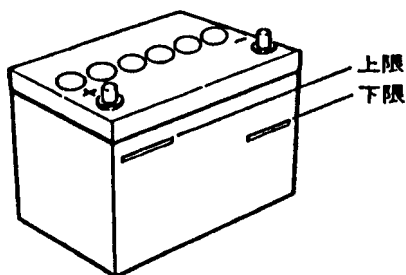
- 1) バッテリーのマイナス端子の接続を外します。
- 2) バッテリーのプラス端子の接続を外します。
- 3) 6 mmのナット2個をゆるめ、バッテリークランプを外し、バッテリーを引き出します。

#### ●取り付け

- 1) バッテリーをセットします。（プラス側が本機前側にくるように）
- 2) バッテリークランプを取り付け、6 mmのナット2個をしめ、固定します。
- 3) バッテリーのプラス端子を接続します。
- 4) バッテリーのマイナス端子を接続します。

### バッテリー液の補給

バッテリー液が少ないときは、バッテリーを本機より外して、バッテリー補充液（蒸留水）を上限まで補給します。



**警告**

**バッテリー液を「下限（LOWER）」以下にしない**

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないで下さい。守らないと容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花がでて、容器内のガスに引火して破裂し、火傷などのケガを負うおそれがあります。

※交換した古いバッテリーは放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。

#### [重要]

指定バッテリー

品番----- 91890-040B19R

品名----- バッテリー 40B19R



## 1 2 章 長期間使用しないときの手入れ

作業シーズンが終わり長期間保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。



ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故をひきおこすことがあります。

ガソリンを抜くときは

- ・エンジンを停止してください。 ・火気を近づけないでください。
- ・換気のよい場所で行ってください。
- ・ガソリンをこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

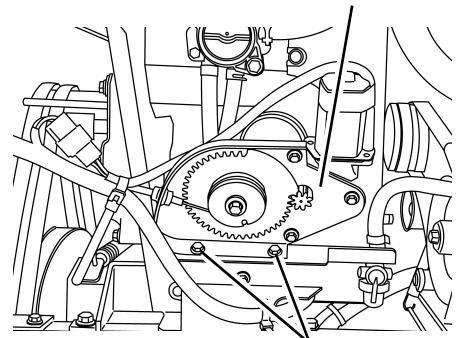
保管するときはエンジンスイッチキーを外してください。

### 燃料の抜き取り

燃料タンク、キャブレター内のガソリンを抜きます。

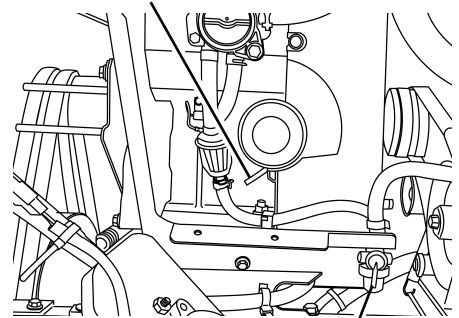
- 1) 燃料タンク内のガソリンをポンプ等で容器に移します。
- 2) ノブを外し、エアークリーナーカバーを取り外します。  
(P. 59参照)
- 3) 左側のサイドカバーを外し (P. 52参照)、モーターブラケットを取り外します。(ボルト2本)
- 4) ドレンホースの先に、容器 (1リットル程度のジョッキなど) を差し込みます。
- 5) ドレンスクリューをゆるめ、キャブレター内のガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
- 6) 燃料コックレバーを「OFF」位置にします。
- 7) 燃料カップを取り外し、燃料コックレバーを「ON」位置にしてガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
- 8) 燃料が抜けたら、燃料カップを取り付けて、ドレンスクリューを確実に締め、燃料コックレバーを「OFF」位置にします。
- 9) モーターブラケットを元通りに組付けます。

モーターブラケット

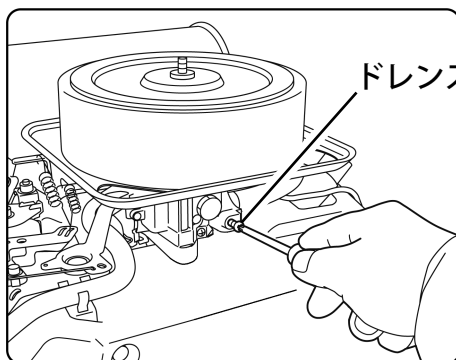


ボルト

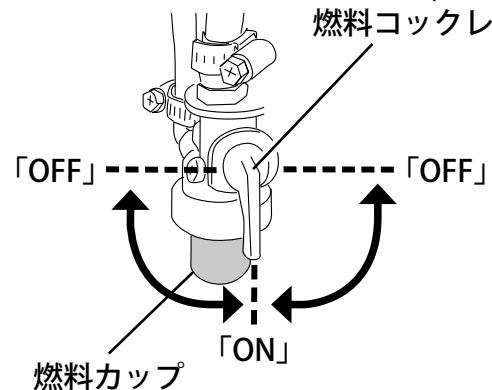
ドレンホース



燃料コックレバー



ドレンスクリュー



### [重要]

- ・ガソリンは自然に劣化しますので、必ず抜いてください。
- ・エンジン、ミッションのオイルは自然に劣化します。使用しない場合でも定期的に交換してください。

## 12章 長期間使用しないときの手入れ


- エンジンオイルを交換します。(P.55参照)
- エアークリーナーを清掃します。(P.59参照)
- バッテリーのマイナス端子の接続を外します。


### [重要]

作業を終わり長期間使用しないで格納するときは、バッテリーが放電しますので6カ月に一度、および作業時期のはじめと終わりに充電を行ってください。なお、充電するときは必ずバッテリーを本機より取り外して行ってください。

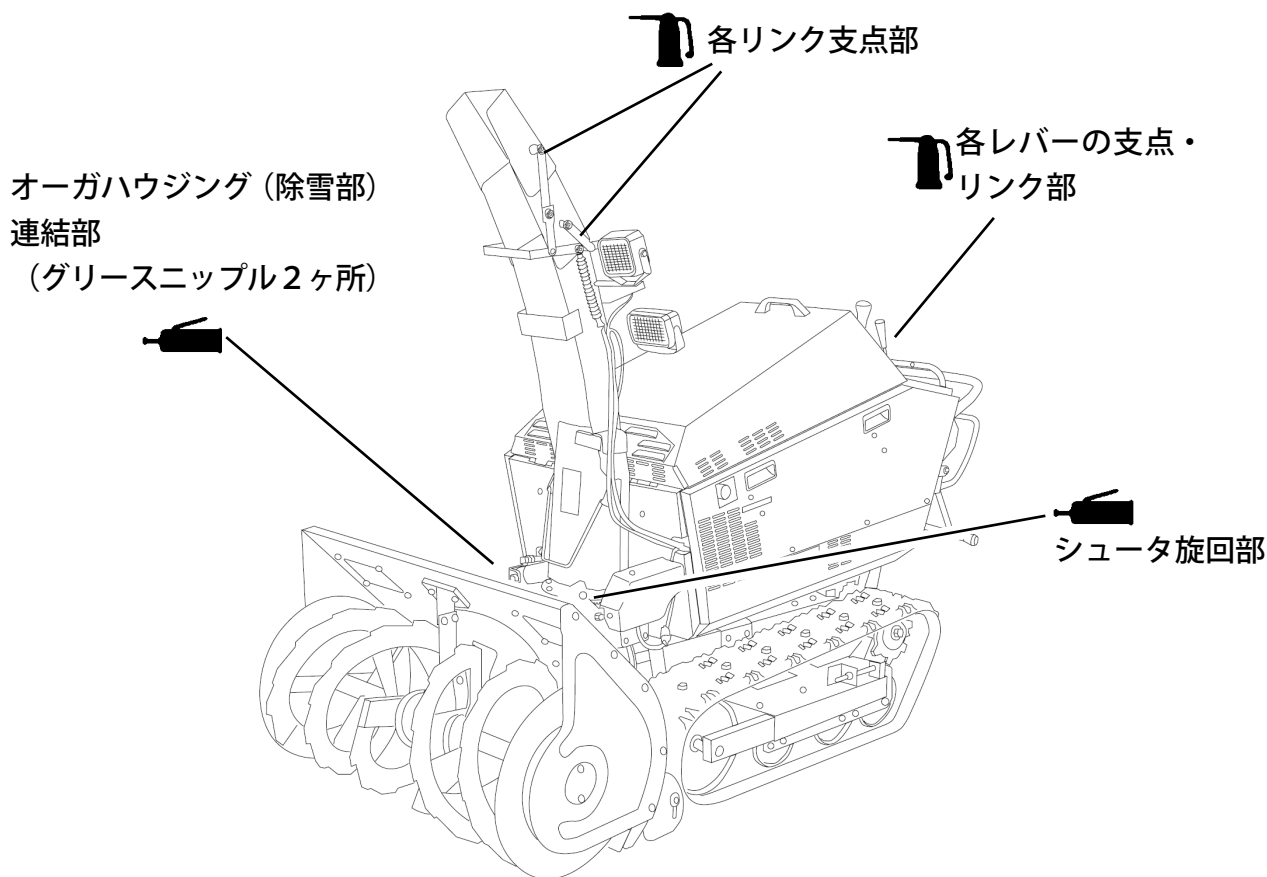
- 水気や汚れを拭き取り、乾燥させた後、各部にオイルまたはグリースを注油してください。

<注油、グリースアップ箇所>

 . . . グリースアップ箇所

 . . . 注油箇所

使用グリース . . . シェル アルバニア グリース S 1  
または 同等品  
使用オイル . . . エンジンオイル



- エンジン等の高温部が冷めてから、ビニール等でカバーをし、湿気やホコリの少ないところに保管してください。

# 13章 不調診断のしかた

故障のときは、まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお問合せください。

こんなときは	点検見直し箇所	処置方法
エンジンが始動しない (セルモータが回らない)	始動方法は間違っていないですか	P. 35 「6章 エンジンのかけかた」を参照し正しい手順で行ってください
	バッテリーが正しく取り付けられていますか	P. 66を参照し正しく取り付けてください
	シュータカバーをきちんと取り付けられていますか	P. 35を参照し正しく取り付けてください
	コントロールヒューズ、またはスローブローヒューズが切れていませんか	P. 65を参照し確認して、修理を受けてください
エンジンが始動しない (セルモータは回る)	燃料が無くなっていませんか	P. 53を参照し補給してください
	燃料コックを開いていますか	P. 68を参照しコックを開いてください
	点火プラグの電極が汚れていませんか	P. 57を参照し清掃してください
オーガ・ブロワが回らない	ブロワベルトが切れていませんか	修理を受けてください
	ブロワベルトがすべっていませんか (すべると、焦げ臭い匂いがします)	調整(交換)してください
	シュータ、ブロワに雪が詰まっていますか	P. 44を参照し、雪を除去してください
	オーガ・ブロワに異物が詰まっていますか	異物を取り除いてください
	シャーボルトが切れていませんか	P. 63を参照し交換してください
走行しない	変速レバーが「中立」になっていませんか	「前進」または「後進」に入れてください
	走行ベルトが切れていませんか	修理を受けてください
	走行ベルトがすべっていませんか (すべると、焦げ臭い匂いがします)	調整(交換)してください
	ミッションオイルが規定量入っていますか	P. 60を参照し補給してください
	クローラに異物が挟まっていますか	異物を取り除いてください
エンジンに力がない	無理な除雪作業をしていませんか	P. 42 「2. 除雪作業の要領」を参照し適切な負荷で作業してください
	エアークリーナーが汚れていませんか	P. 59を参照し清掃してください
	エンジンオイルが規定量入っていますか	P. 54を参照し規定量入れてください
排気の色が黒い	負荷をかけすぎていませんか	P. 42 「2. 除雪作業の要領」を参照し適切な負荷で作業してください
排気の色が白い	エンジンオイルを入れすぎていませんか	P. 54を参照し、規定量にしてください
除雪部が上下しない 又はローリングしない	ポンプ駆動ベルトが切れていませんか	修理を受けてください
	ポンプ駆動ベルトがすべっていませんか (すべると、焦げ臭い匂いがします)	調整(交換)してください
	油圧オイルが不足、または汚れていませんか	P. 61を参照し補給、または交換してください
	油圧系統にゴミが入っていませんか	修理を受けてください
	油圧ホースが切れていませんか	修理を受けてください
シュータが動かない	シュータヒューズが切れていませんか	P. 65を参照し確認して、修理を受けてください
	可動部分に雪や氷がたまっていますか	雪・氷を除去してください
	コネクターが外れていませんか	コネクターを接続してください
作業灯が点灯しない	ライトヒューズが切れていませんか	P. 65を参照し確認して、修理を受けてください
	電球が切れていませんか	交換してください
	コネクターが外れていませんか	コネクターを接続してください
エンジンが停止しない	P. 68を参照し燃料コックを閉じてください (まもなく、エンジンは停止します)	修理を受けてください

# 14章 主要諸元

## 主要諸元

項目		型式名	SX1792-NT	
	全長	mm	1,990	
	全幅	mm	920	
	全高 (デフレクタ上げ時)	mm	1,610	
	全高 (デフレクタ下げ時)	mm	1,370	
装備重量		kg	405	
性能	除雪幅	mm	920	
	除雪高	mm	600	
	最大除雪量 ※ (グラフはエンジン最大出力 毎の最大除雪量の範囲を 示しています。 本機の最大除雪量は エンジン最大出力から グラフでご確認ください)		<p>注1) グラフは目安です。雪質などの使用条件により最大除雪量は異なります。 注2) グラフは除雪機安全協議会会員の2017年モデルのデータを基に作成しています。</p>	
	最大投雪距離 ※ (グラフはブロワ周速毎の 最大投雪距離の範囲を 示しています。 本機の最大投雪距離は ブロワ周速から グラフでご確認ください)		<p>注1) グラフは目安です。雪質などの使用条件により最大投雪距離は異なります。 注2) グラフは除雪機安全協議会会員の2017年モデルのデータを基に作成しています。</p>	
	ブロワ周速 (無負荷最高回転数時)		m/s	27.4

※ 除雪機安全協議会では、2019年度版から、除雪能力は共通のグラフ指標を用いることにしました。

14章 主要諸元

項目		型式名	SX1792-NT	
エンジン	名称		EH63	
	形式		空冷4ストロークV形2気筒OHVガソリンエンジン	
	総排気量	cc	653	
	最大出力	kW(PS)/rpm	12.7 (17.3) / 3,600	
	始動方式		セルモータ式	
	使用燃料		無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	リットル	15	
走行部	前進車速	km/h	0～3.5	
	後進車速	km/h	0～2.0	
	ミッション駆動		HST	
	クローラ		スノーパターンゴムクローラ	
	幅×接地長×トレッド	mm	200×640×640	
作業部	形式		2ステージ、1オーガ、1ブロワ	
	除雪部上下方式		油圧式	
	除雪部ローリング方式		油圧式	
	ローリング角度	度	左右各7	
	ブロワ形式		横型ブロワ	
	オーガ形式		2条リボンスクリュー	
	シュータ	旋回方式		電動モータ
		上下方式		2段デフレクタ、電動モータ
	シャーボルト	ブロワ		コガタM8×25 (全ネジ)
オーガ			M10×30 (全ネジ)	

\*この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

# 15章 主要消耗部品および標準付属品

## 主要消耗部品・交換部品

部品番号	部品名	備考
90001-B10-000	シャーボルト 8×25 (コガタ ASSY)	ブロワ用
90002-B18-000	シャーボルト 10×30 ASSY	オーガ用
35300-B66-603	オーガL COMP	
35400-B66-604	オーガR COMP	
36200-B50-803	ブロワ COMP	
31901-B16-800	ソリL	
31902-B16-800	ソリR	
31901-B66-800	エッジ	
91652-0808043	W800ベルト SB43	ブロワ 2本
91652-0208031	レッドSIIベルト SB31	走行 1本
91652-0208026	レッドSIIベルト SB26	ポンプ駆動 1本
91890-040B19R	バッテリー 40B19R	
91821-007	電球 12V-18W	作業灯 (シュータ部、ボンネット上部)
91811-110	ブレードヒューズ 10A	ライト・アクチュエータ
91811-130	ブレードヒューズ 30A	シュータ
91811-340	スローブローヒューズ 40A	スローブローヒューズ
7D3-1119C-00	プラグ,スパーク	NGK BPR5ES
7D3-13440-00	オイルクリーナー ASSY	エンジンオイルフィルター
7D3-24502-00	フューエルフィルター ASSY	燃料フィルター
7D3-14451-00	エレメント, 1	エアークリーナー

## 標準付属品

部品番号	部品名	個数	備考
	保証書、安全確認カード	1	
91901-B88-070	取扱説明書 (SX1792)	1	
90001-B10-000	シャーボルト 8×25 (コガタ ASSY)	1袋	10セット入り
90002-B18-000	シャーボルト 10×30 ASSY	1袋	10セット入り
91903-B43-000	コンビネーションレンチ 12	2	
91905-B16-000	コンビネーションレンチ 17	2	
7D3-28100-00	ツールキット	1	点火プラグ用
91811-110	ブレードヒューズ 10A	1	
91811-130	ブレードヒューズ 30A	1	
98100-B07-001	シートカバー	1	





# 和同産業株式会社



JQA-QM5922 本社・工場  
JQA-EM3683 本社・工場  
CM009  
この登録マークは製品またはサービス  
そのものを保証するものではありません。

本 社 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地  
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221  
花巻営業所 〒025-0035 岩手県花巻市実相寺410番地  
TEL 0198-24-3221 FAX 0198-41-1221  
長野営業所 〒381-2207 長野県長野市大橋南2丁目19番地  
TEL 026-285-0885 FAX 026-285-0887  
岩見沢営業所 〒068-0852 北海道岩見沢市大和2条3丁目9番地  
TEL 0126-22-6221 FAX 0126-32-2162  
岡山出張所 〒708-0015 岡山県津山市神戸536-1  
本社へお問い合わせください

WADOホームページ <https://www.wadosng.jp/>

## お客様メモ

購入日 年 月 日

購入店

2023年1月

本冊子には再生紙を使用しています。

91901-B88-070